

定点把握疾病（五類感染症）の状況

※令和3(2021)年は52週、令和4(2022)年は52週での比較です。

定点当たり報告数の比較について

報告数を比較する際には、結核・感染症発生動向調査情報の月報における解析情報の表現と同様に、その比の値により、以下のような表現で記載します。

報告数の比の値

1.50倍以上	大幅に高い水準
1.25～1.49倍	かなり高い水準
1.10～1.24倍	やや高い水準
0.90～1.09倍	ほぼ同様の水準
0.75～0.89倍	やや低い水準
0.50～0.74倍	かなり低い水準
0.49倍以下	大幅に低い水準

警報・注意報レベルの基準値

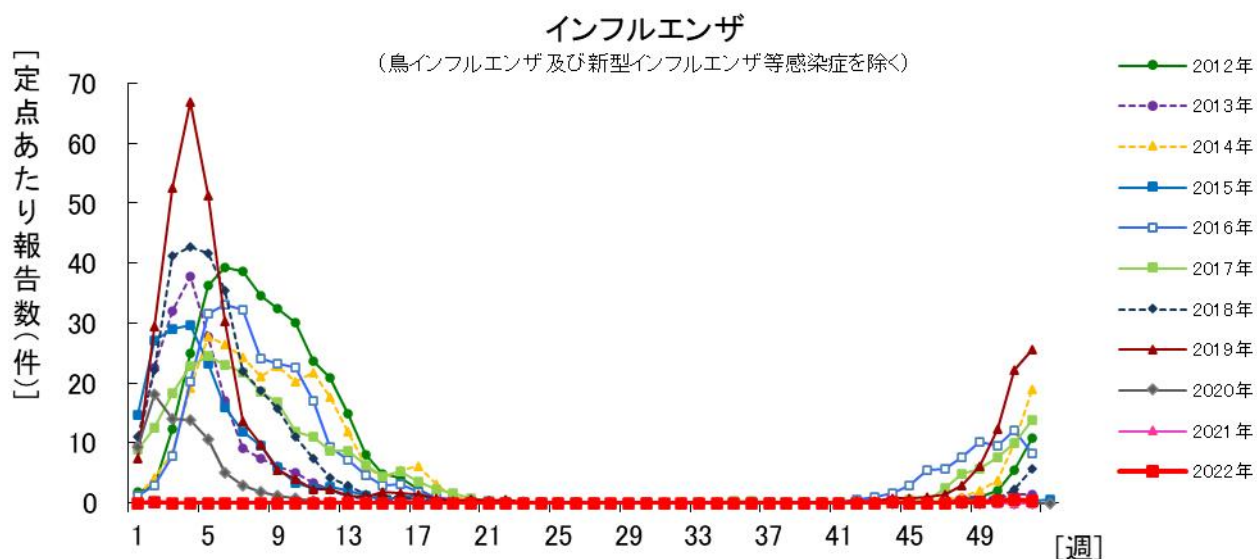
疾病名	警報		注意報
	開始基準	終息基準	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

1. インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

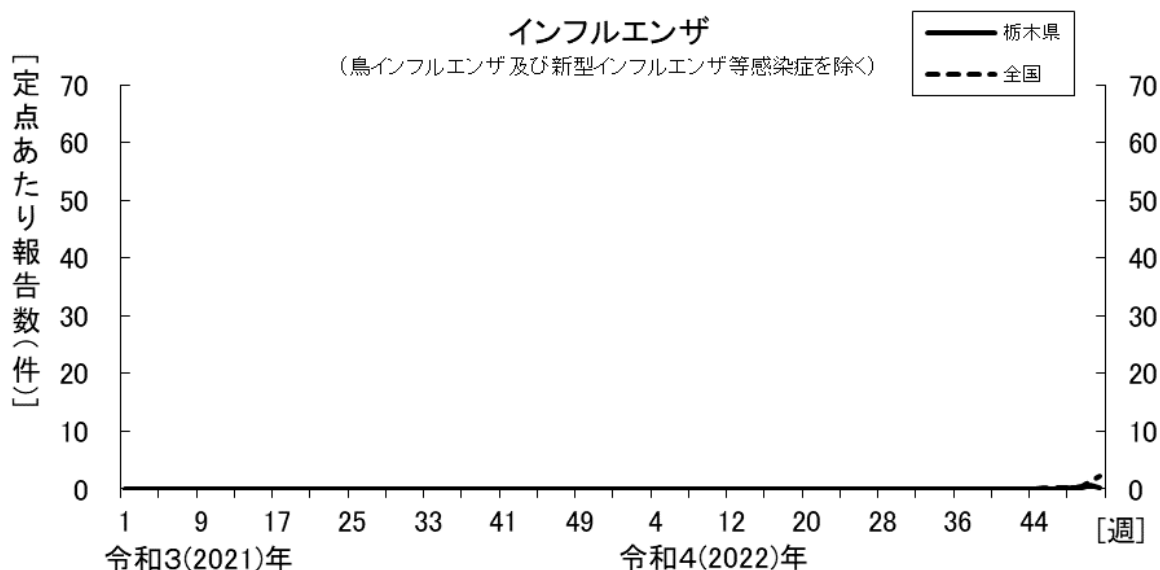
令和4（2022）年の総報告数は120件で、令和3（2021）年（11件）と比較すると10.91倍と大幅に増加しました。21-22シーズンは、ほとんど発生がなく、シーズンを通じて大きな流行は見られませんでした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県1.58、全国5.20で、全国と比較して0.30倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



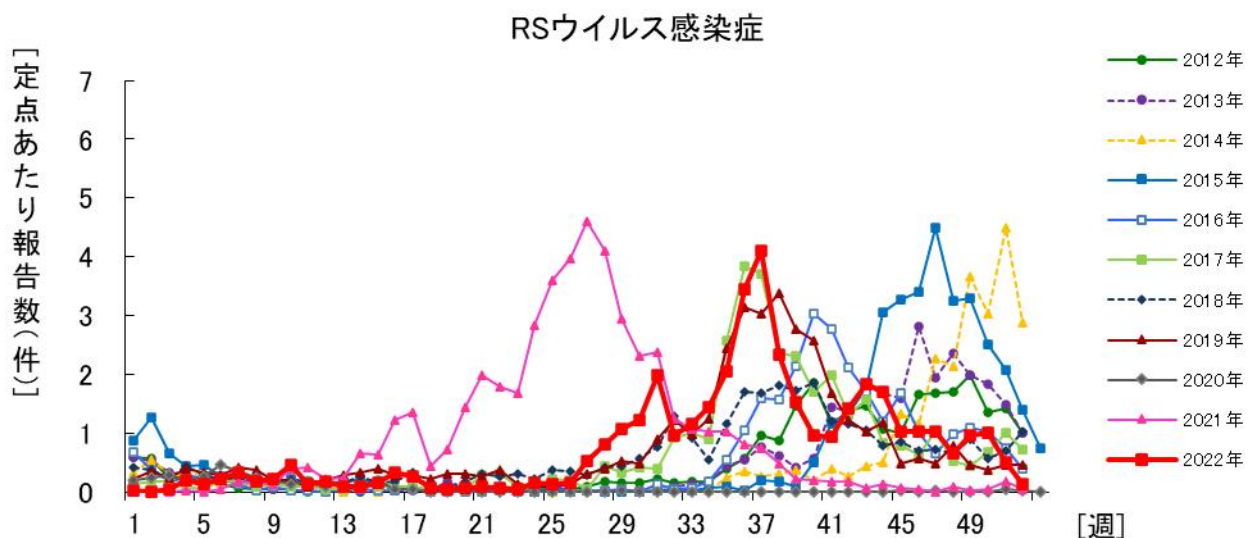
2. RSウイルス感染症

令和4(2022)年の総報告数は1,911件で、令和3(2021)年(2,325件)と比較すると0.82倍とやや減少しました。

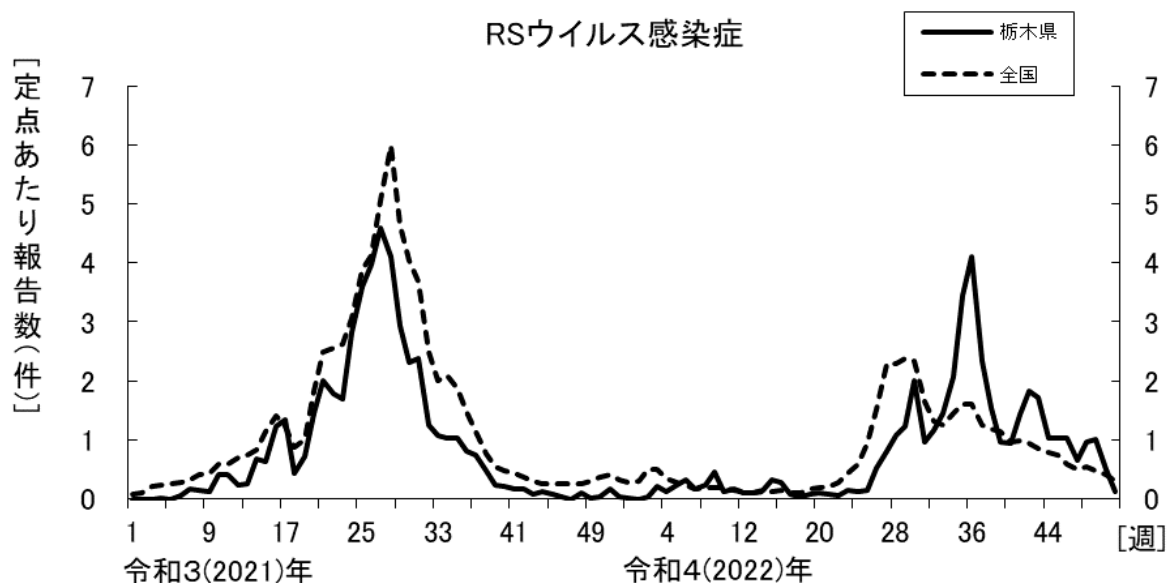
第37週(9/12~9/18)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0~1歳が48.4%、2~9歳が51.5%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県39.81、全国38.30で、全国と比較して1.04倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



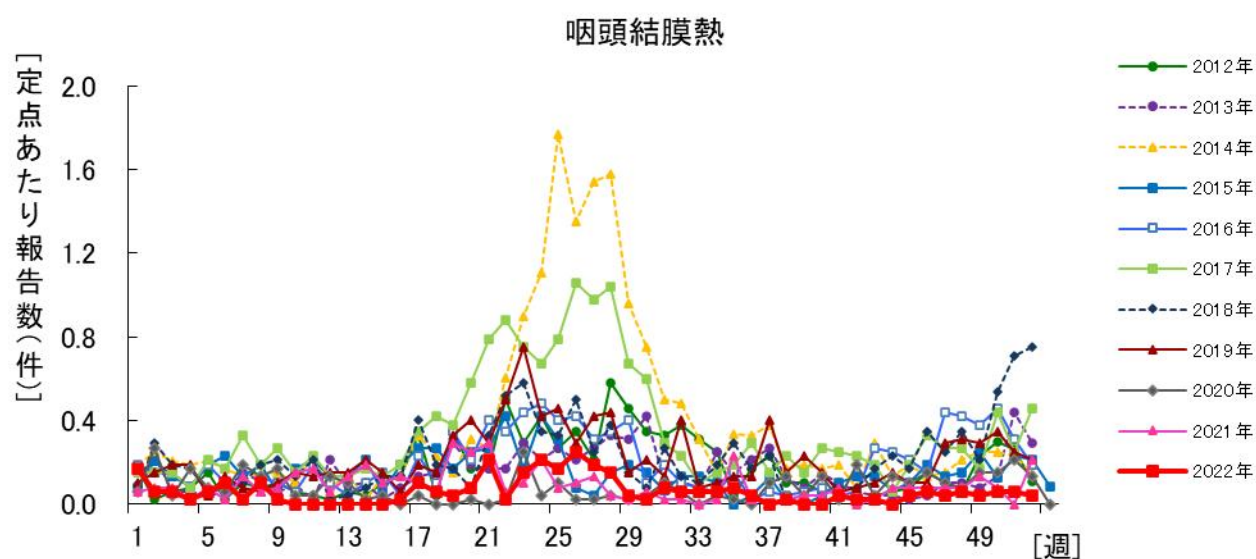
3. 咽頭結膜熱

令和4(2022)年の総報告数は156件で、令和3(2021)年(226件)と比較すると0.69倍とかなり減少しました。

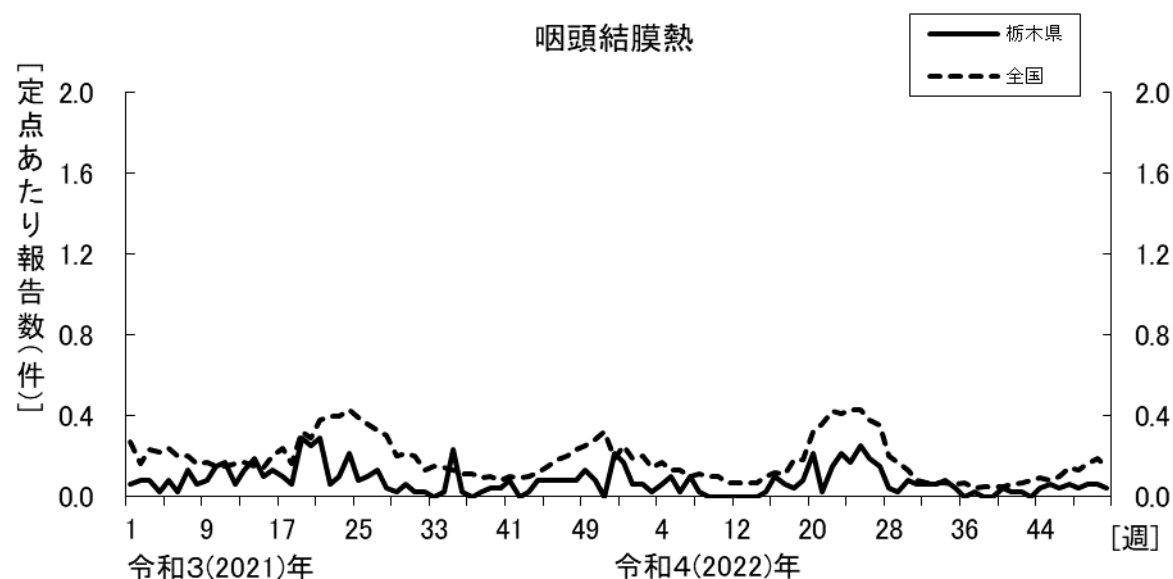
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が91.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県3.25、全国8.05で、全国と比較して0.40倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



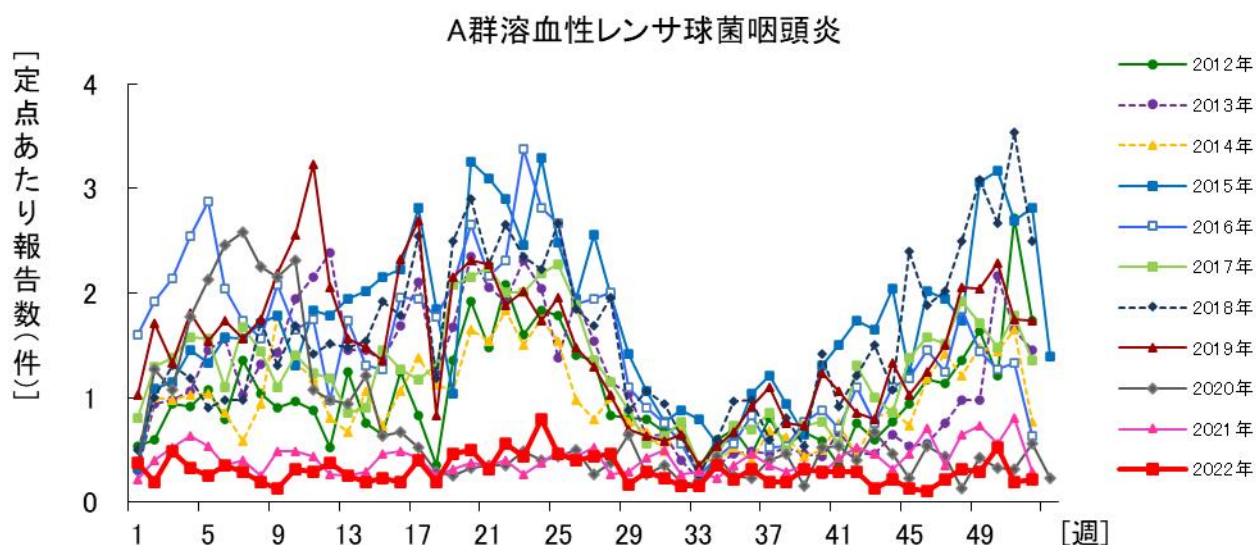
4. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

令和4(2022)年の総報告数は745件で、令和3(2021)年(1,020件)と比較すると0.73倍とかなり減少しました。

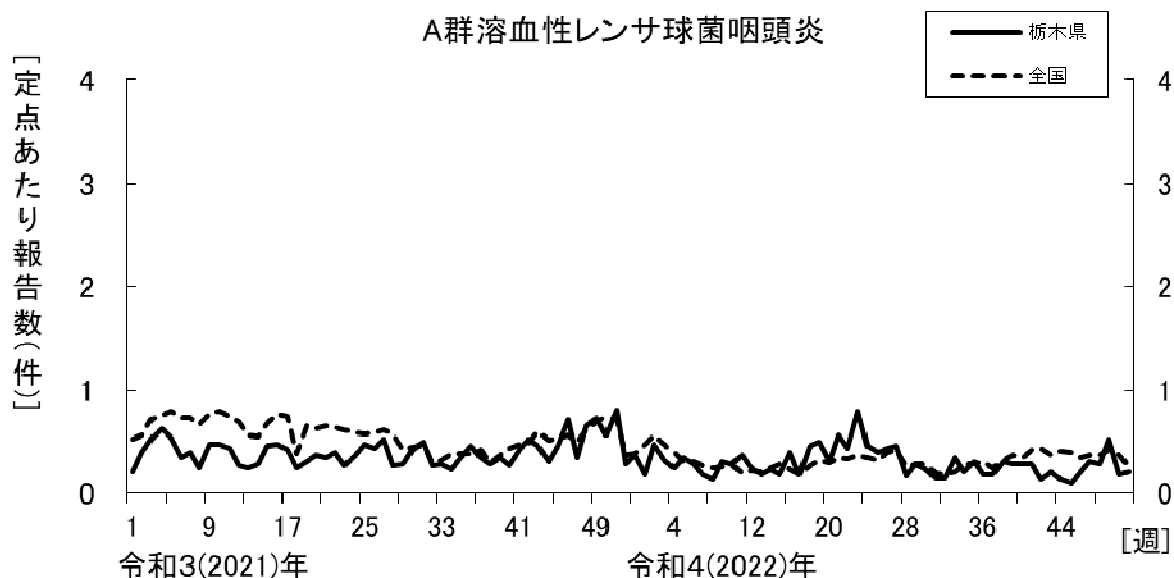
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、0～4歳が48.5%、5～9歳が39.9%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県15.52、全国16.84で、全国と比較して0.92倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



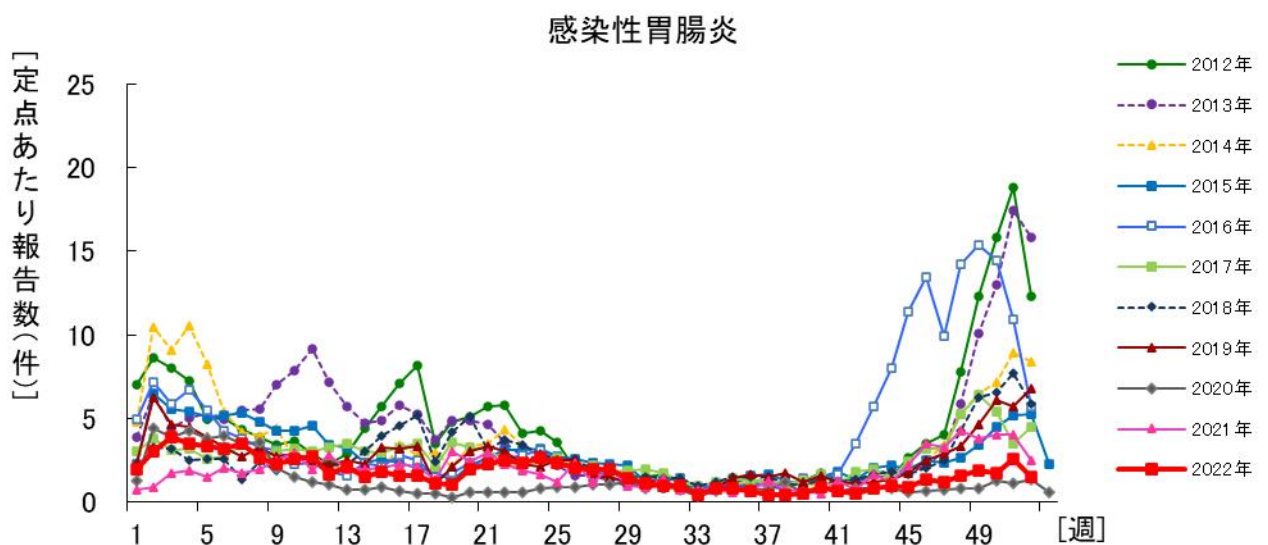
5. 感染性胃腸炎

令和4(2022)年の総報告数は4,326件で、令和3(2021)年(4,715件)と比較すると0.92倍とほぼ同様でした。

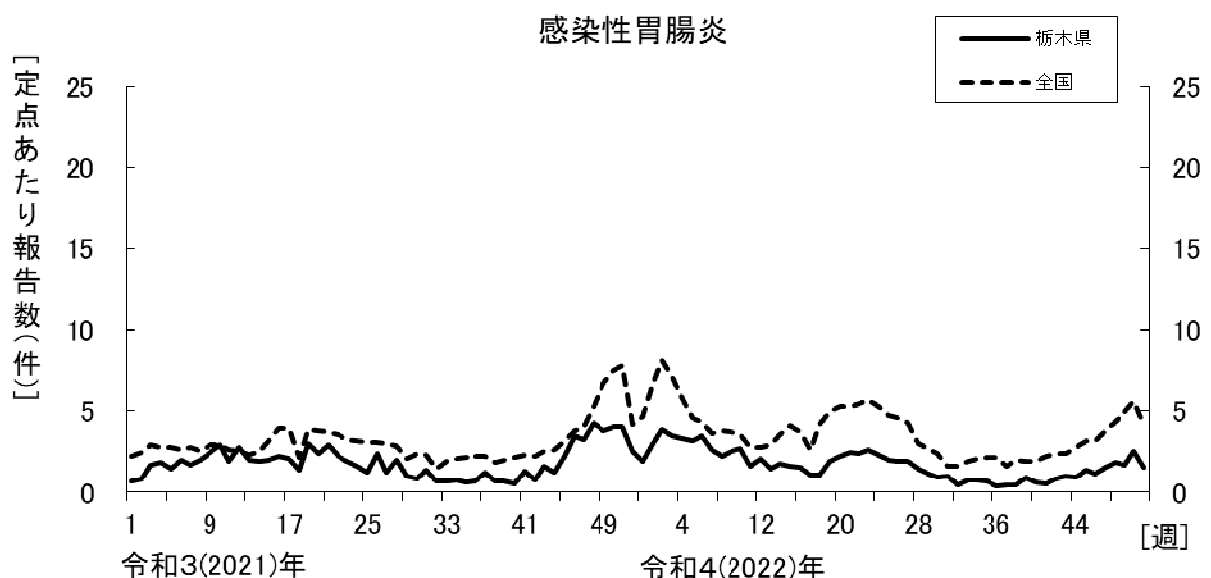
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、0～4歳が59.8%、5～9歳が23.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県90.13、全国195.29で、全国と比較して0.46倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



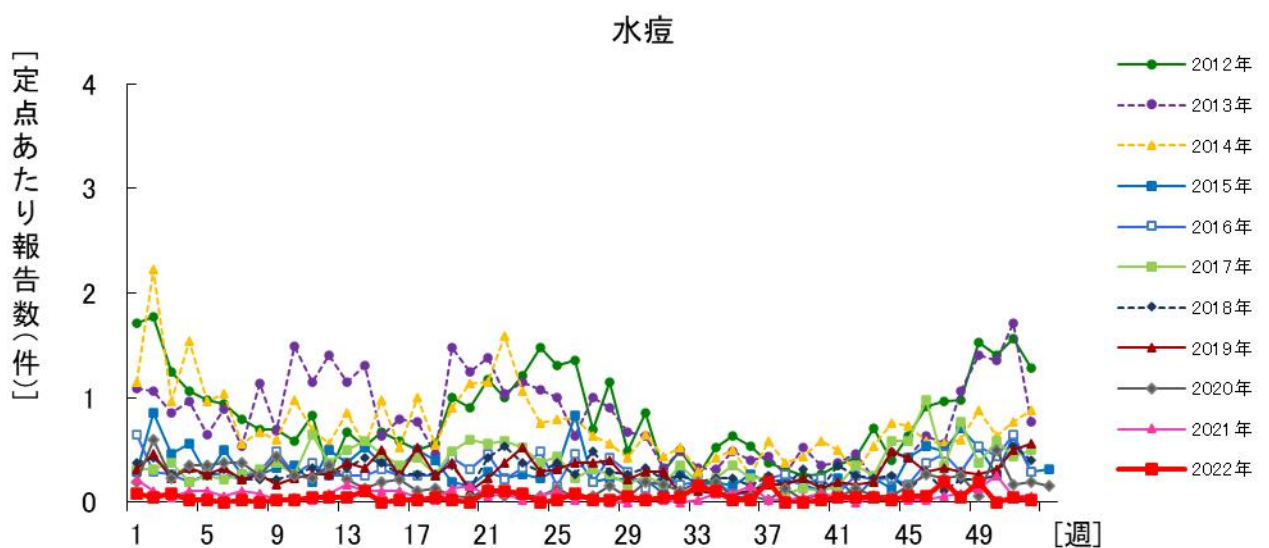
6. 水痘

令和4(2022)年の総報告数は120件で、令和3(2021)年(172件)と比較すると0.70倍とかなり減少しました。

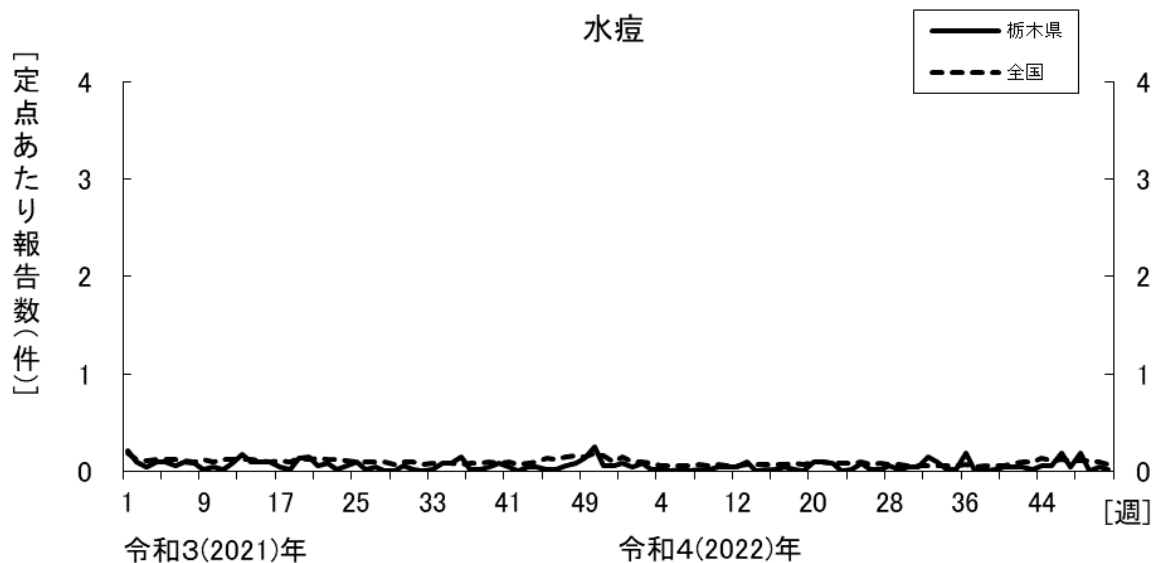
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が36.7%、5～9歳が36.7%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県2.50、全国3.98で、全国と比較して0.63倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



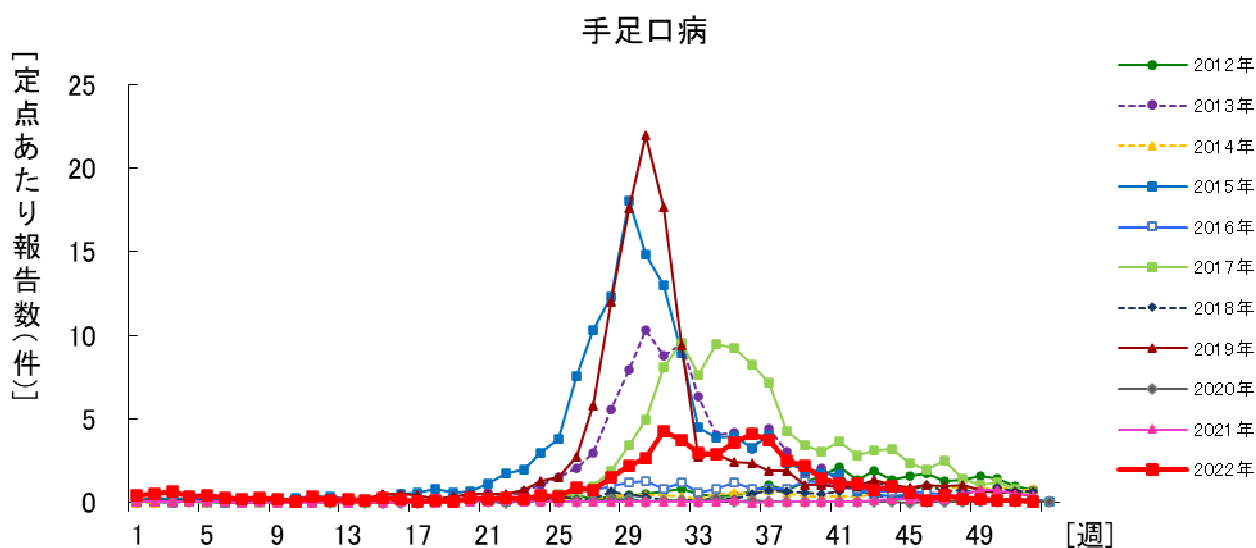
7. 手足口病

令和4(2022)年の総報告数は2,475件で、令和3(2021)年(256件)と比較すると9.67倍と大幅に増加しました。

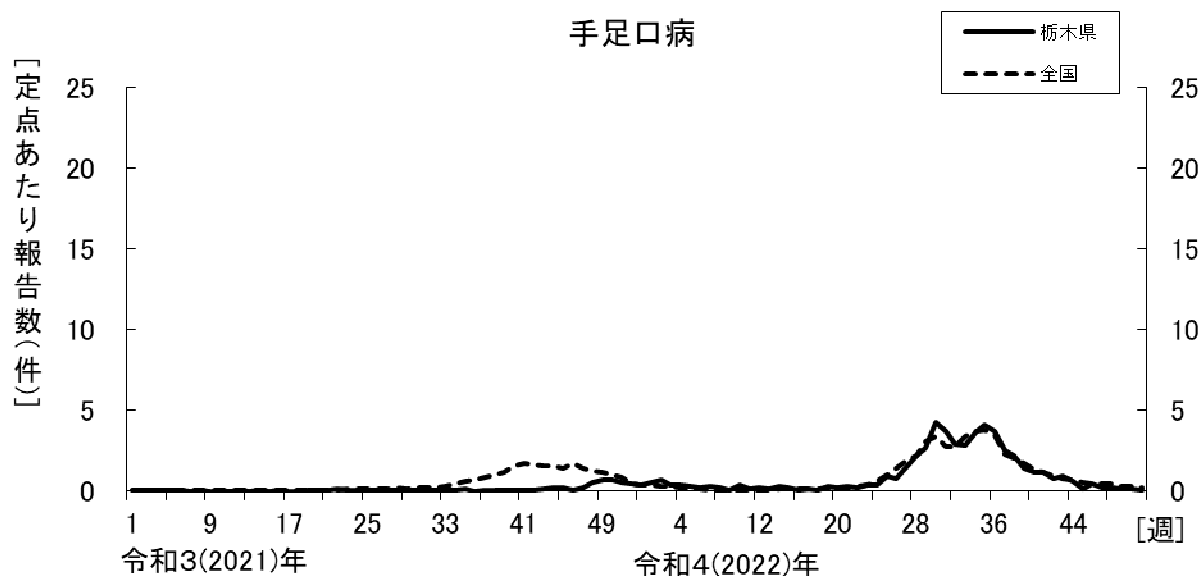
第31週(8/1~8/7)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0~4歳が92.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県51.56、全国50.55で、全国と比較して1.02倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



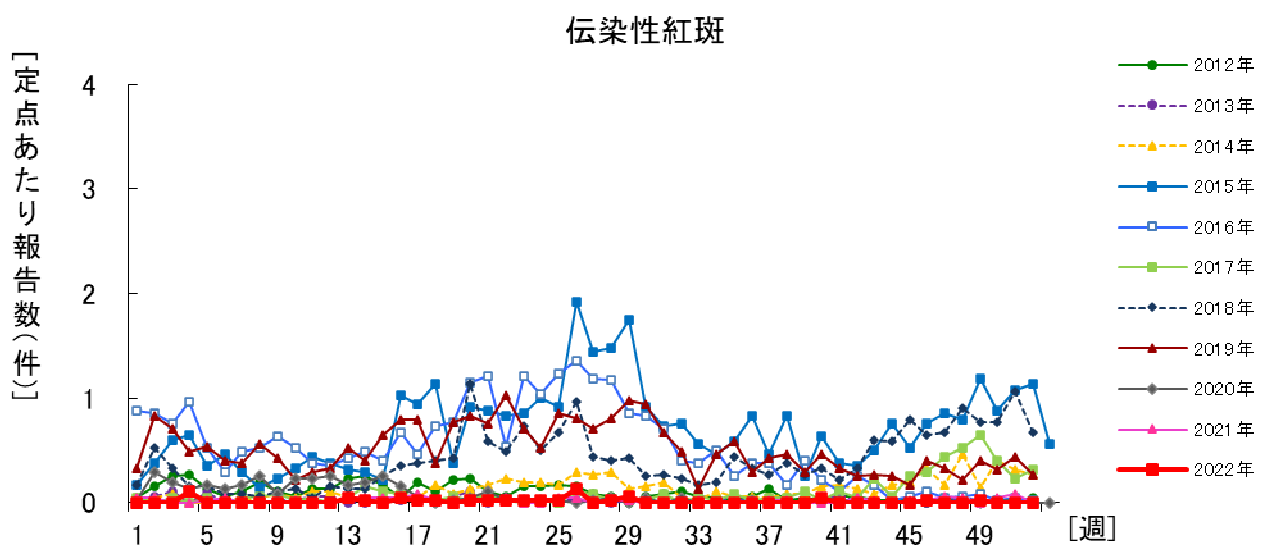
8. 伝染性紅斑

令和4(2022)年の総報告数は32件で、令和3(2021)年(50件)と比較すると0.64倍とかなり減少しました。

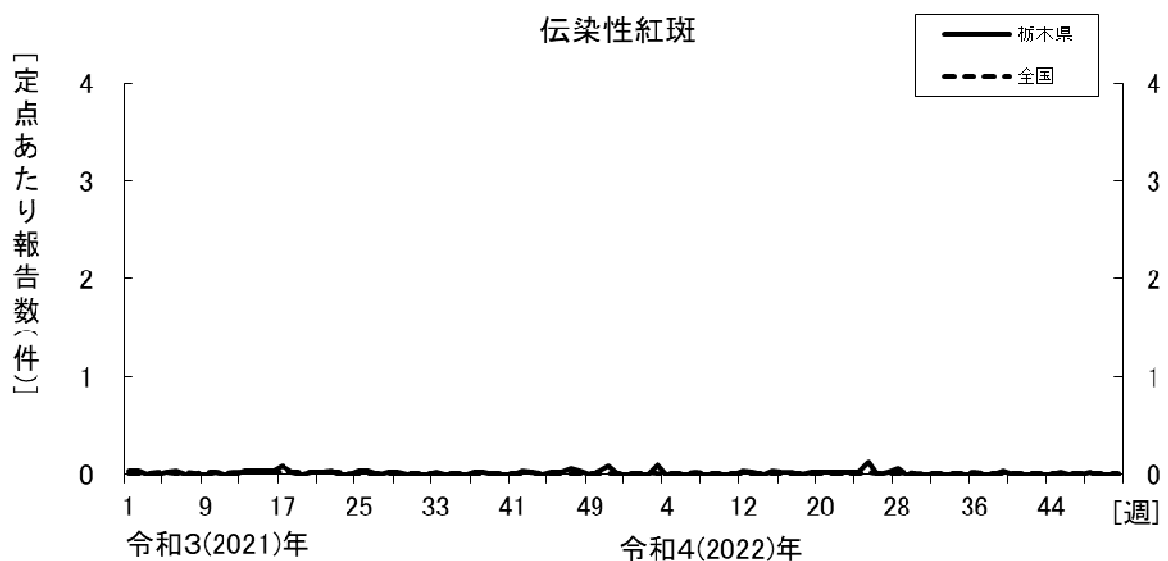
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が84.4%、5～9歳が15.6%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.67、全国0.60で、全国と比較して1.12倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



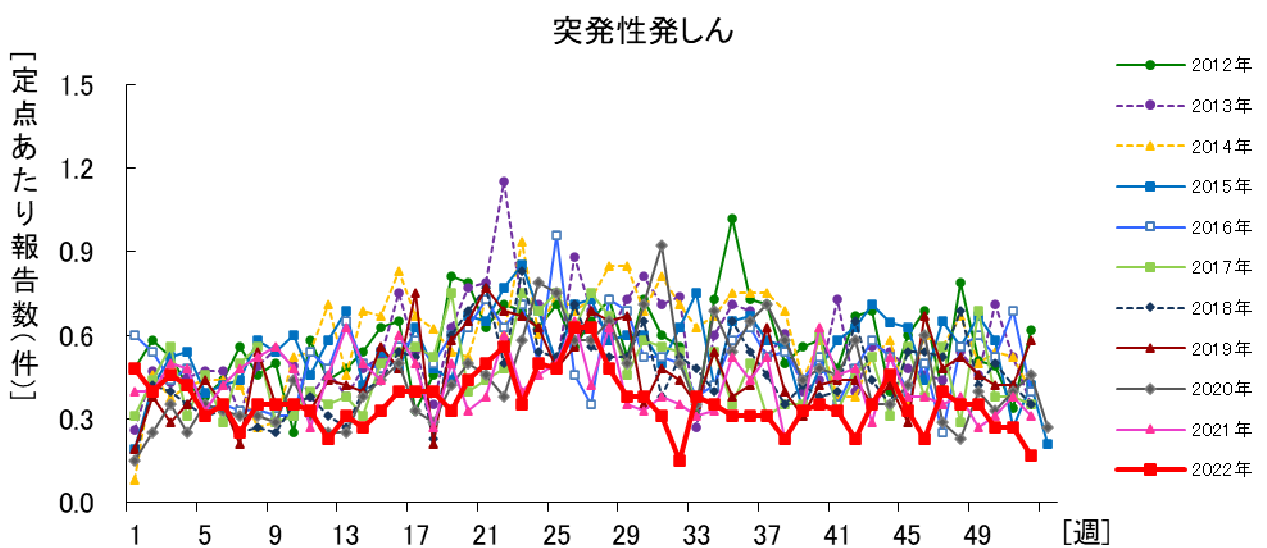
9. 突発性発しん

令和4(2022)年の総報告数は904件で、令和3(2021)年(1,071件)と比較すると0.84倍とやや減少しました。

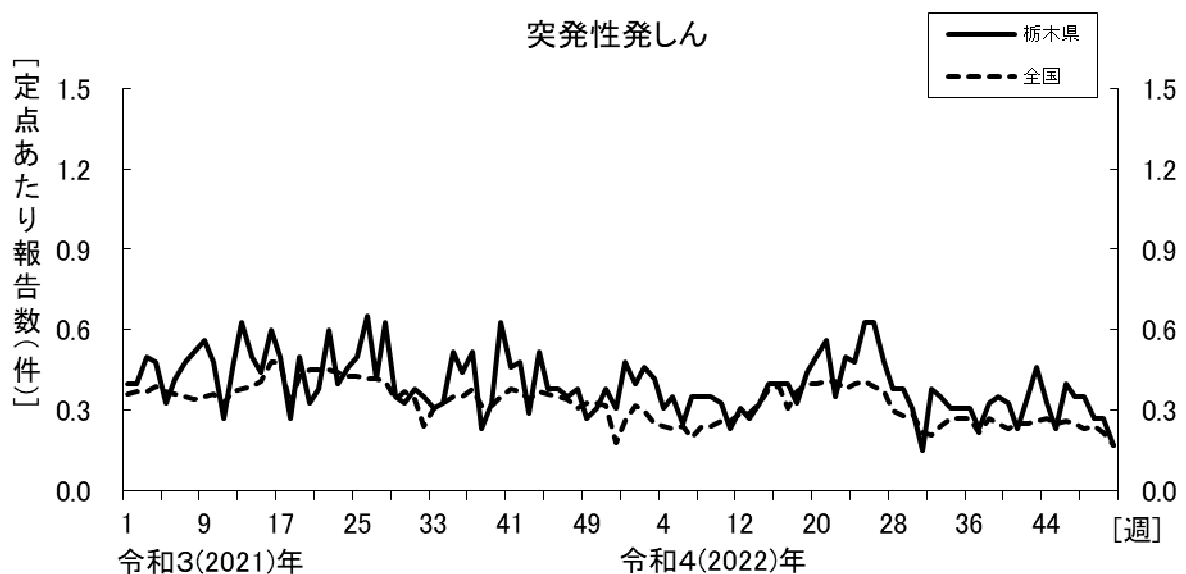
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、1歳以下が84.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県18.83、全国14.97で、全国と比較して1.26倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



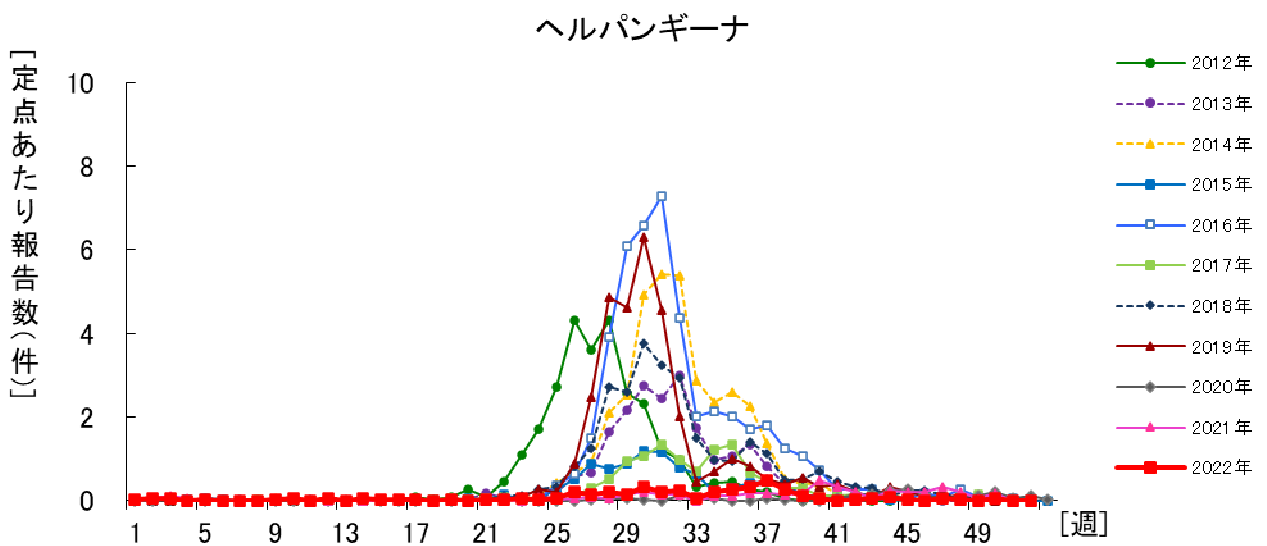
10. ヘルパンギーナ

令和4(2022)年の総報告数は192件で、令和3(2021)年(216件)と比較すると0.89倍とやや減少しました。

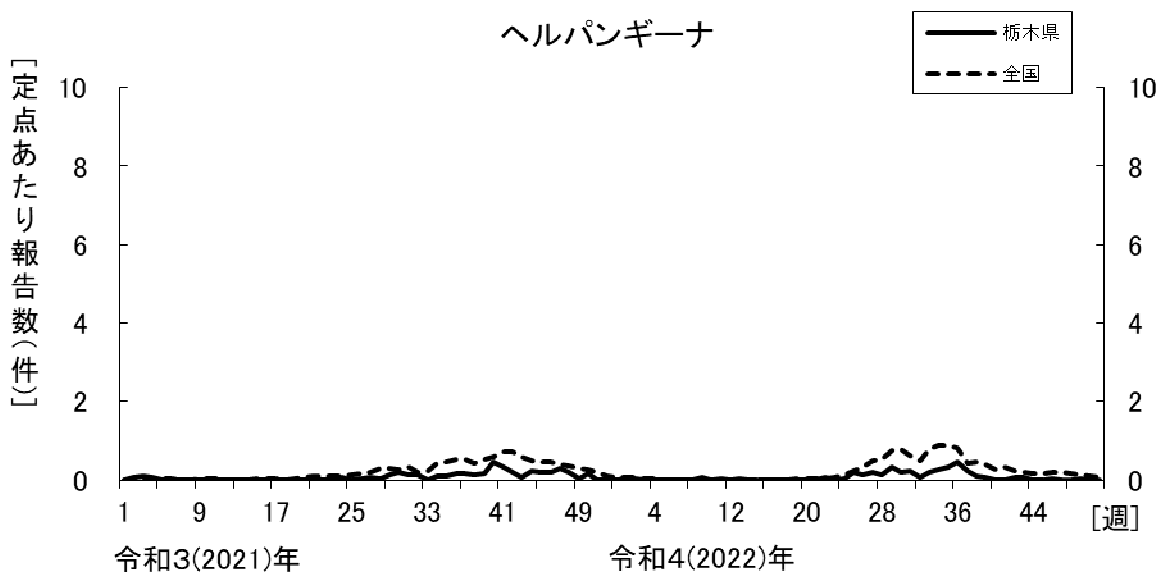
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が87.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県4.00、全国12.10で、全国と比較して0.33倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



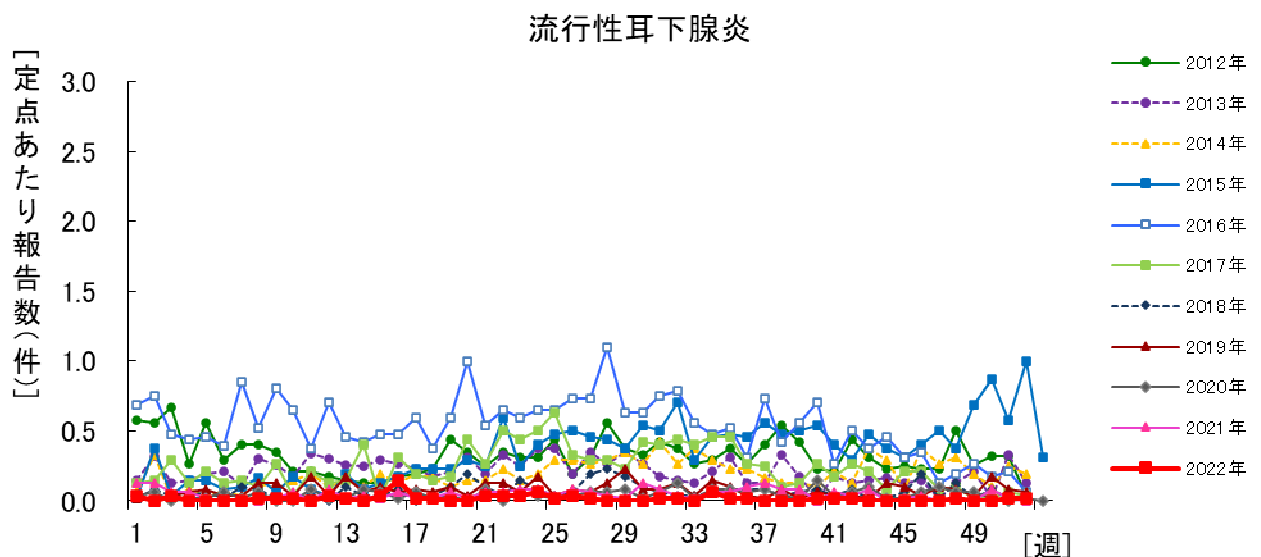
11. 流行性耳下腺炎

令和4(2022)年の総報告数は47件で、令和3(2021)年(122件)と比較すると0.39倍と大幅に減少しました。

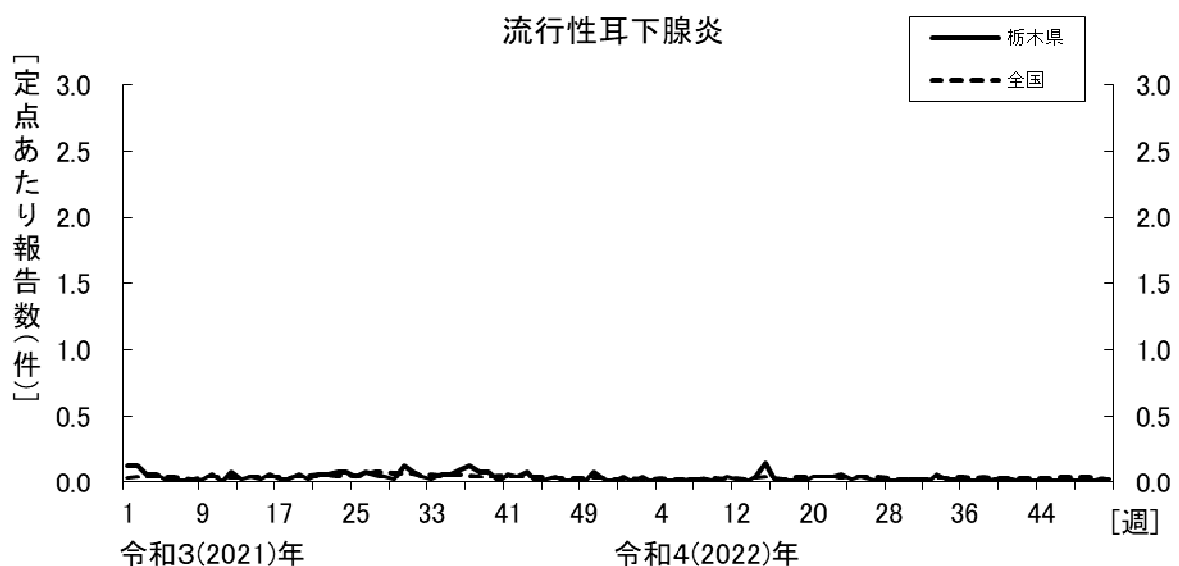
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、5～9歳が70.2%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.98、全国1.57で、全国と比較して0.62倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



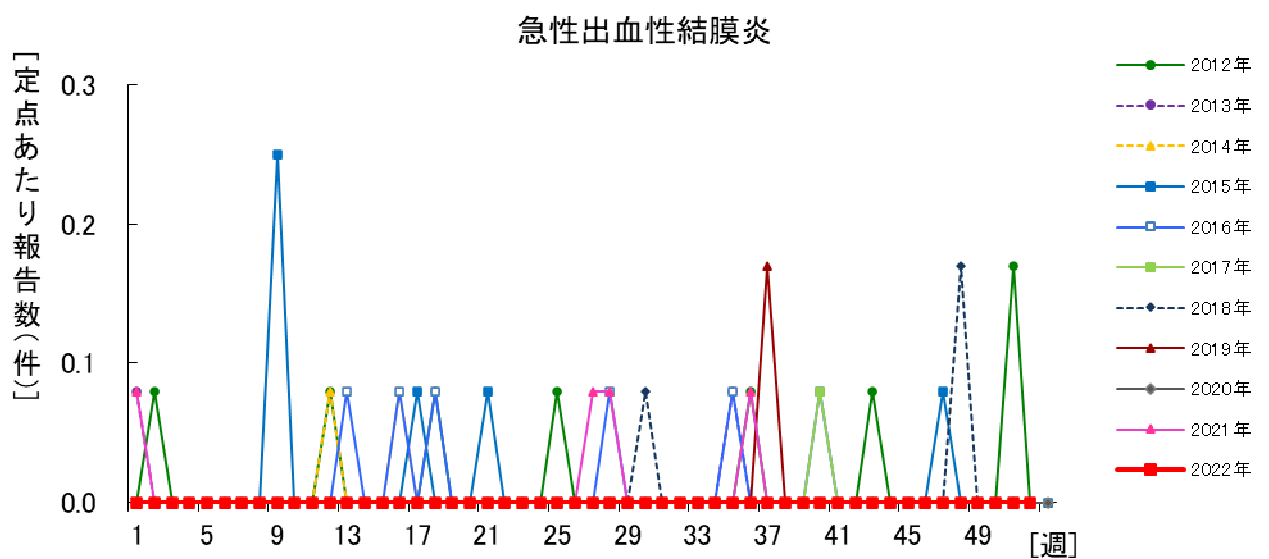
定点あたり報告数の動向(全国との比較)



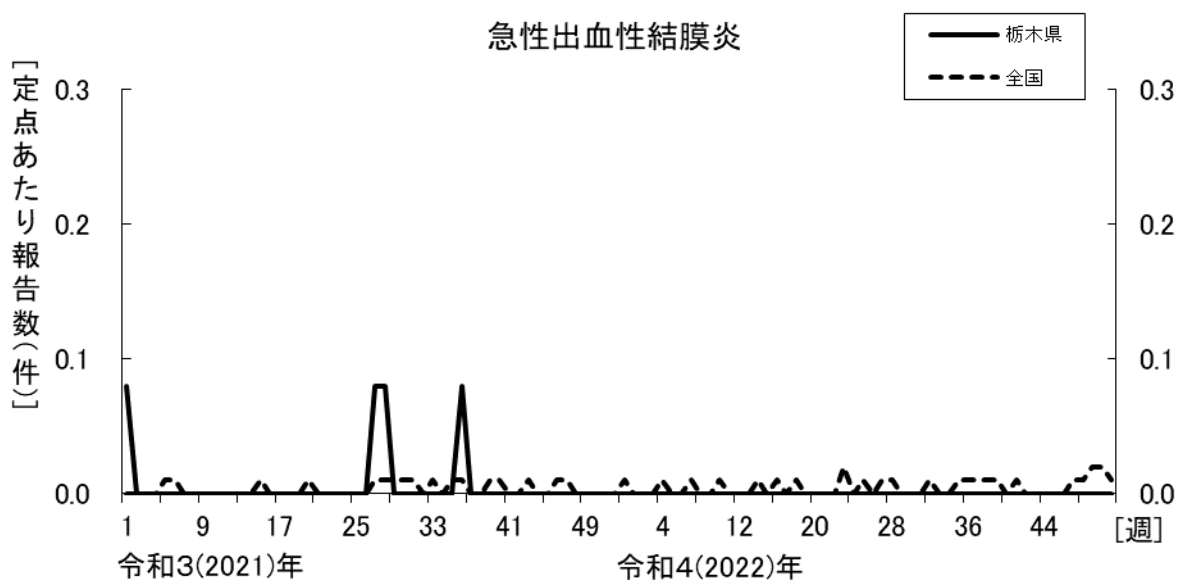
12. 急性出血性結膜炎

令和4(2022)年の総報告数は0件でした(令和3(2021)年は4件)。
 年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.00、全国0.27でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

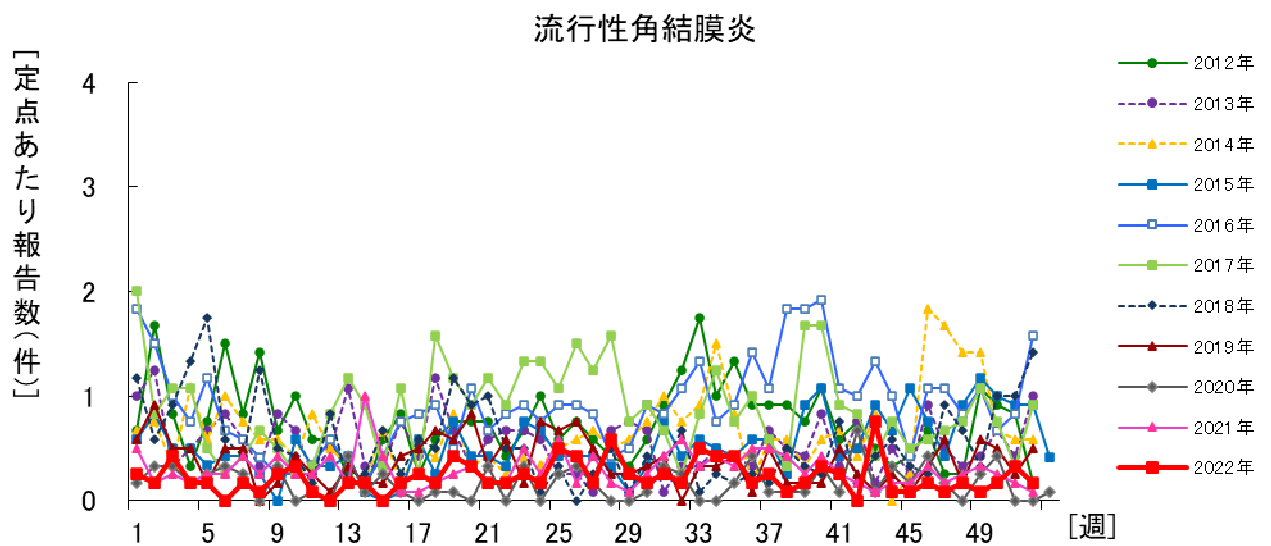


13. 流行性角結膜炎

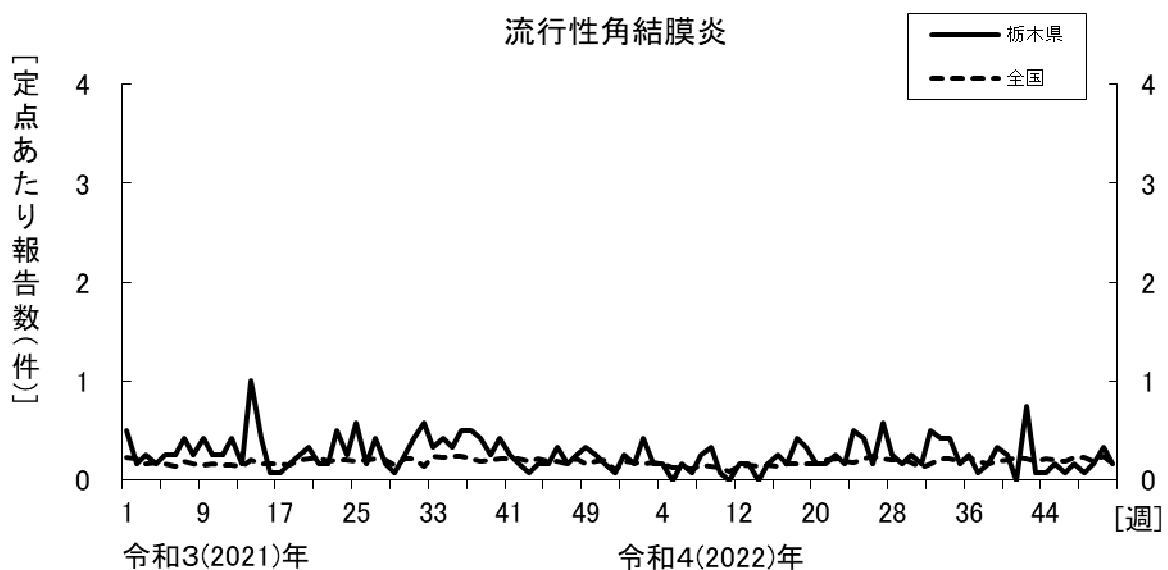
令和4(2022)年の総報告数は140件で、令和3(2021)年(185件)と比較すると0.76倍とやや減少しました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県11.67、全国9.37で、全国と比較して1.25倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

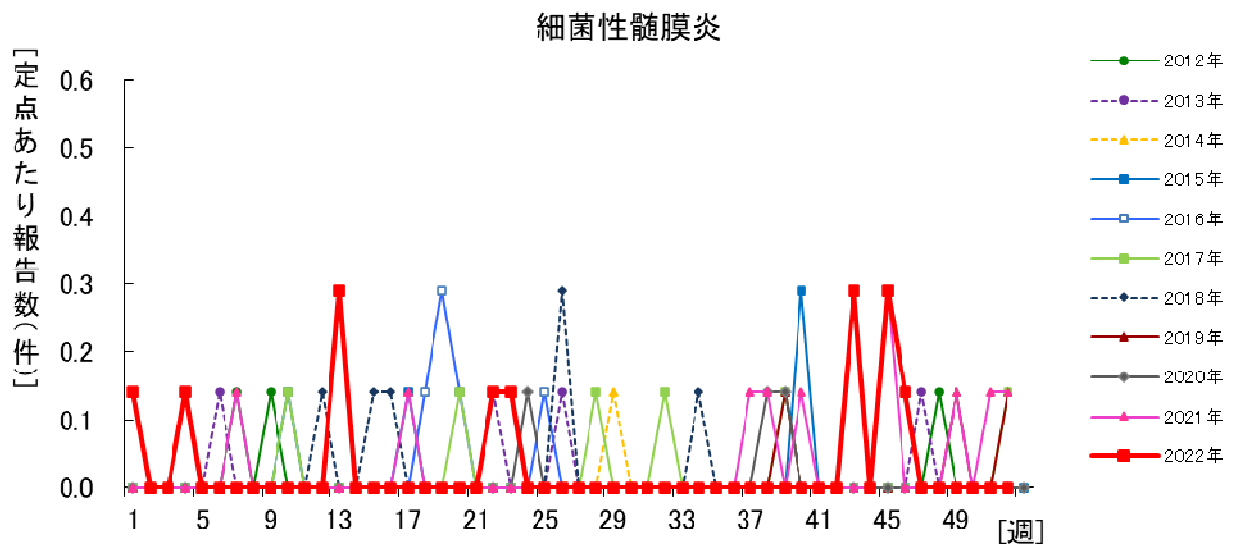


14. 細菌性髄膜炎

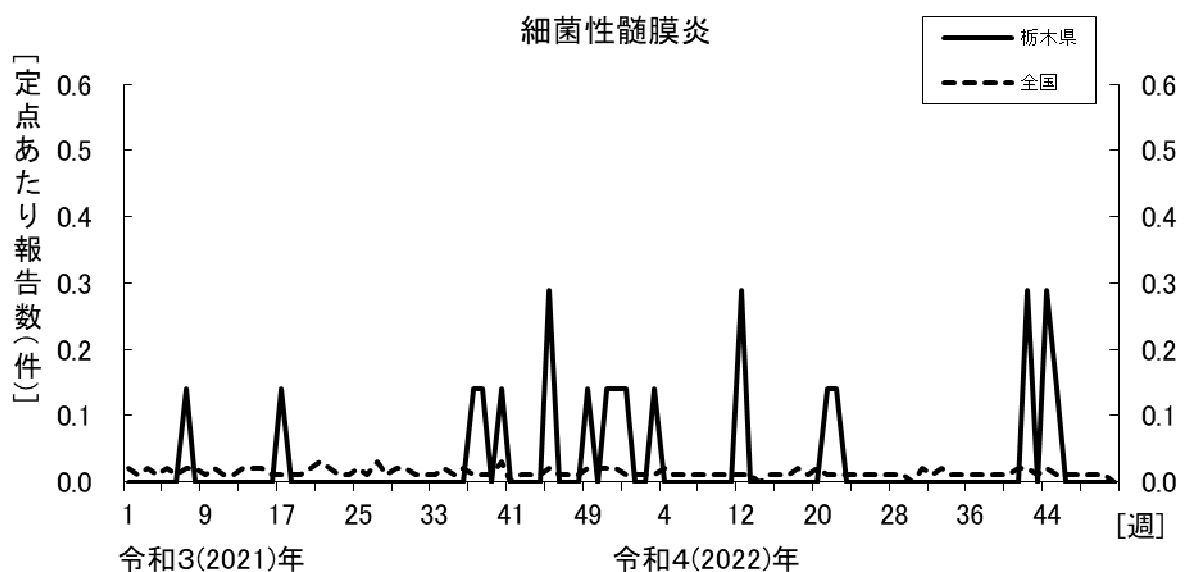
令和4(2022)年の総報告数は11件でした(令和3(2021)年は10件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県1.57、全国0.62で、全国と比較して2.53倍と大幅に高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

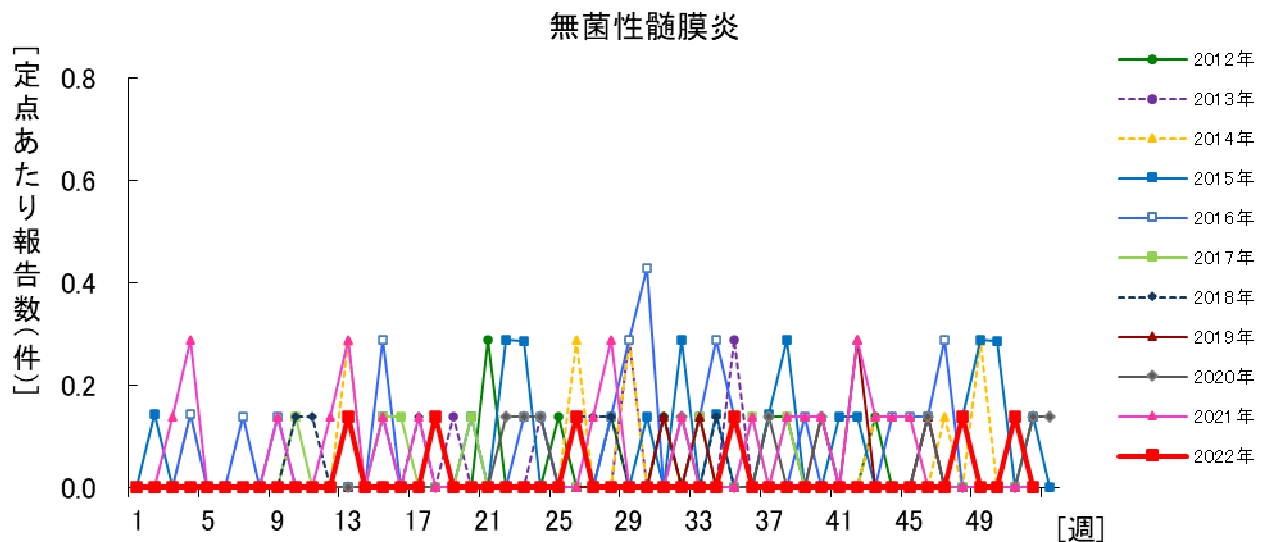


15. 無菌性髄膜炎

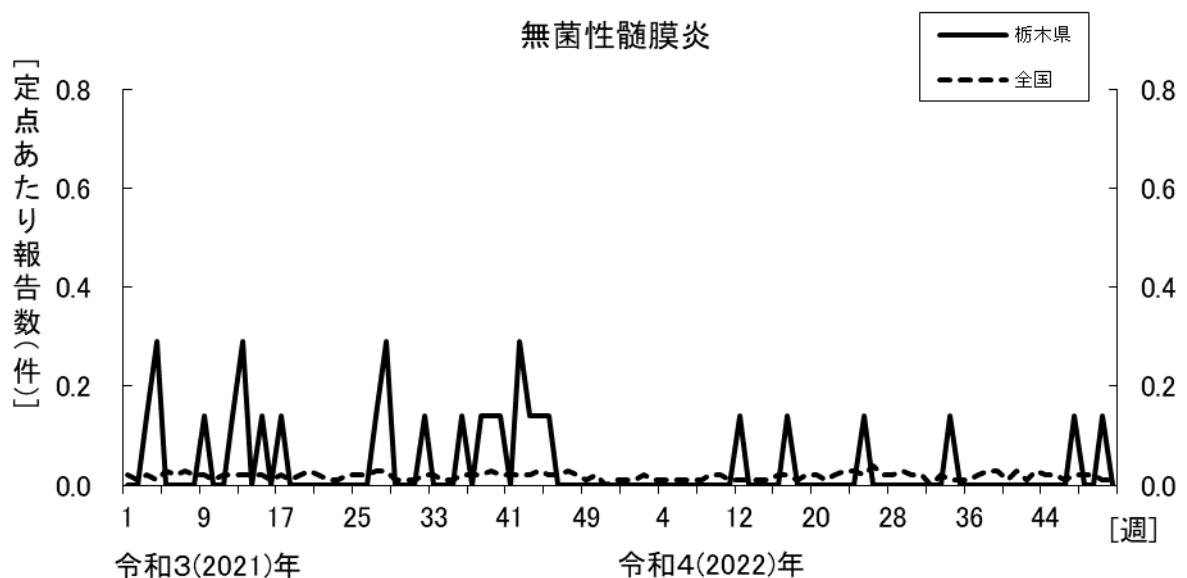
令和4(2022)年の総報告数は6件でした(令和3(2021)年は22件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.86、全国0.91で、全国と比較して0.95倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

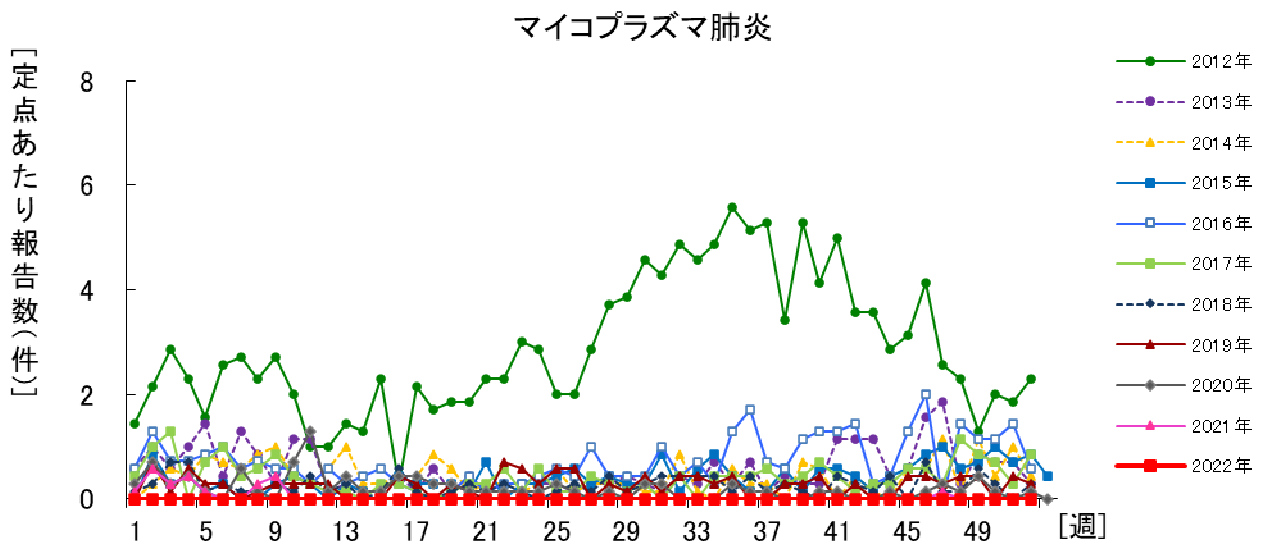


16. マイコプラズマ肺炎

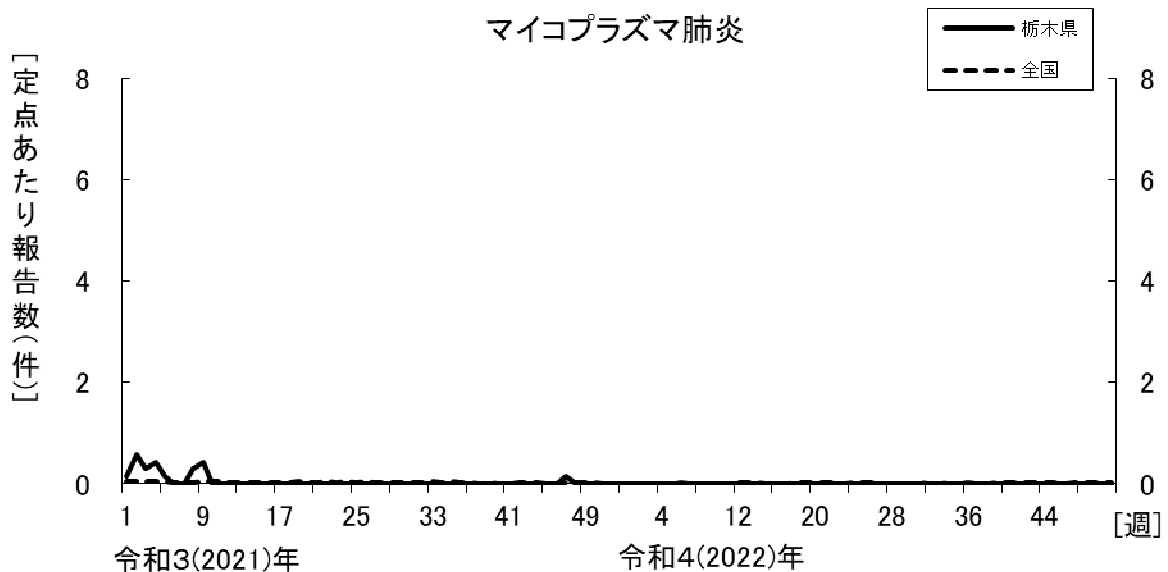
令和4(2022)年の総報告数は0件でした(令和3(2021)年は17件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.00、全国0.83でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

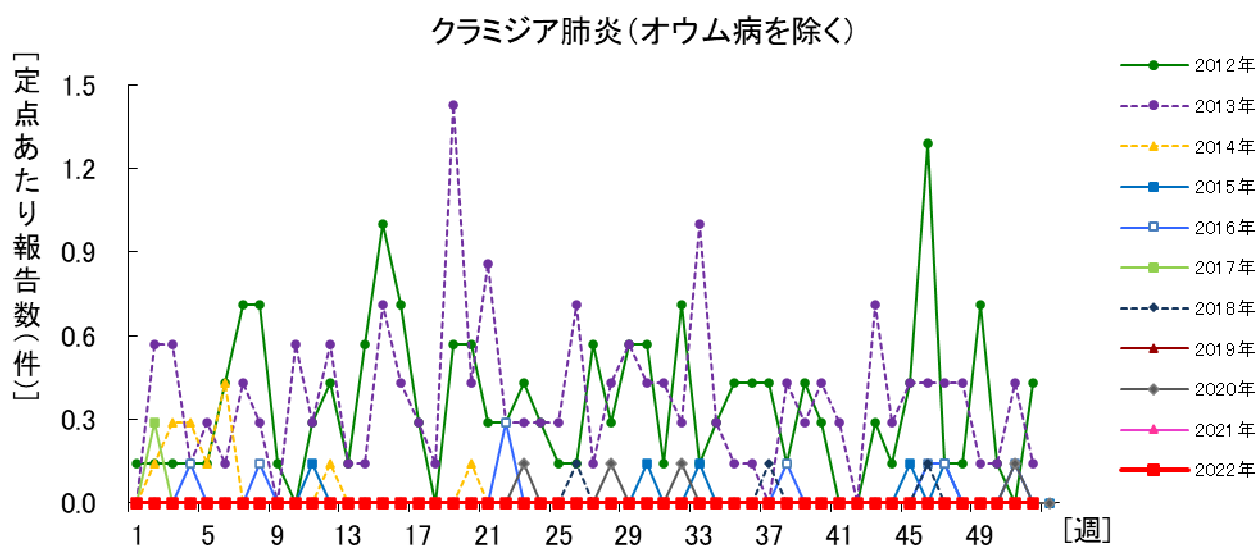


17. クラミジア肺炎（オウム病を除く）

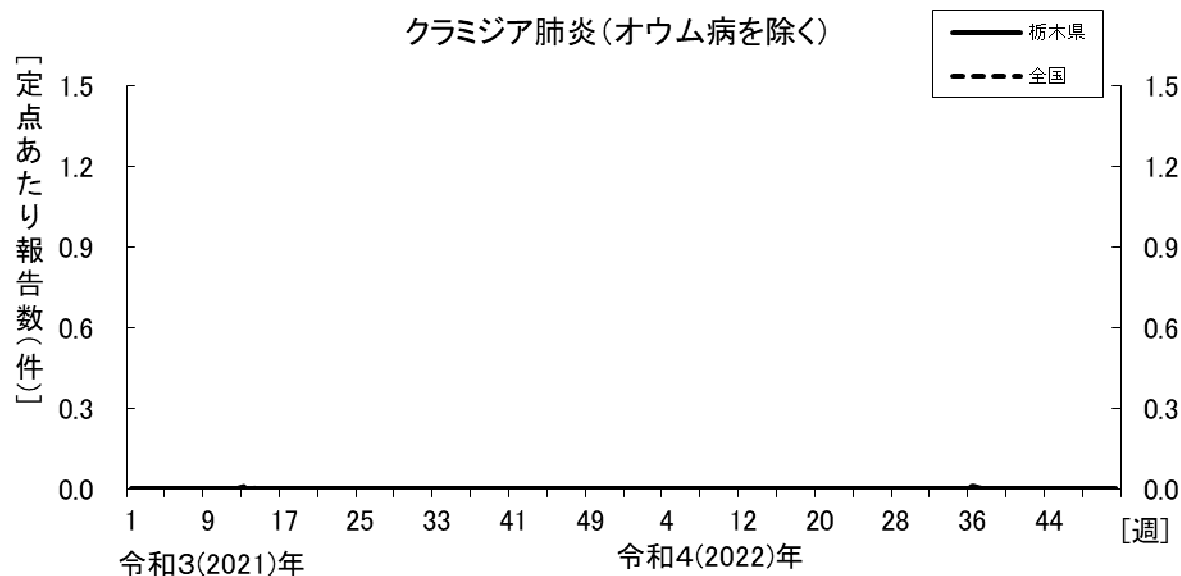
令和4（2022）年の総報告数は0件でした（令和3（2021）年は0件）。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.00、全国0.07で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

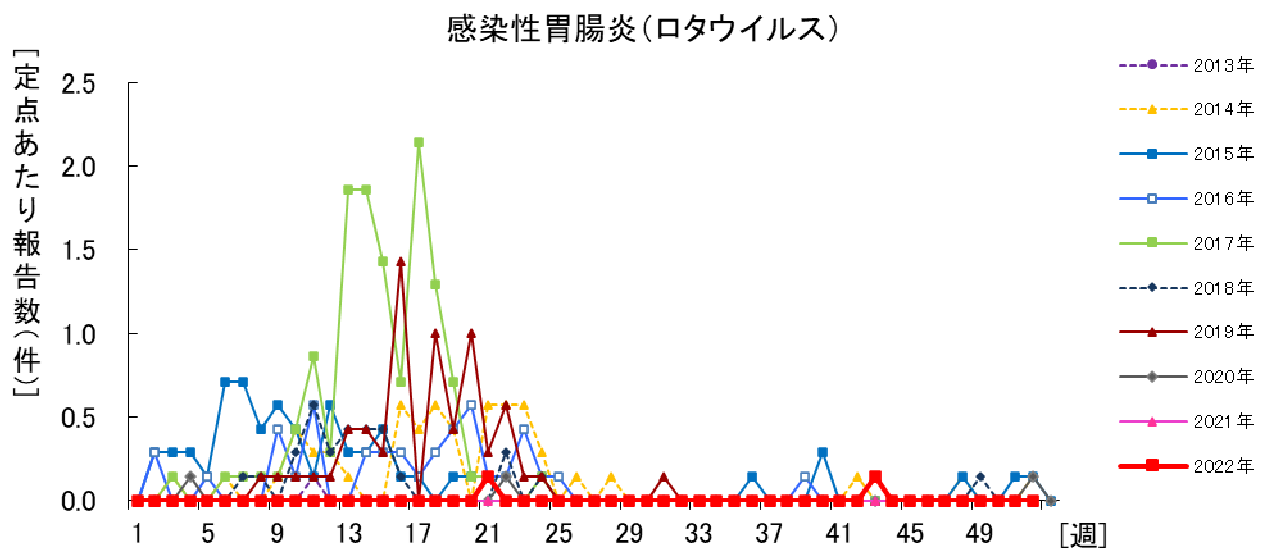


18. 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

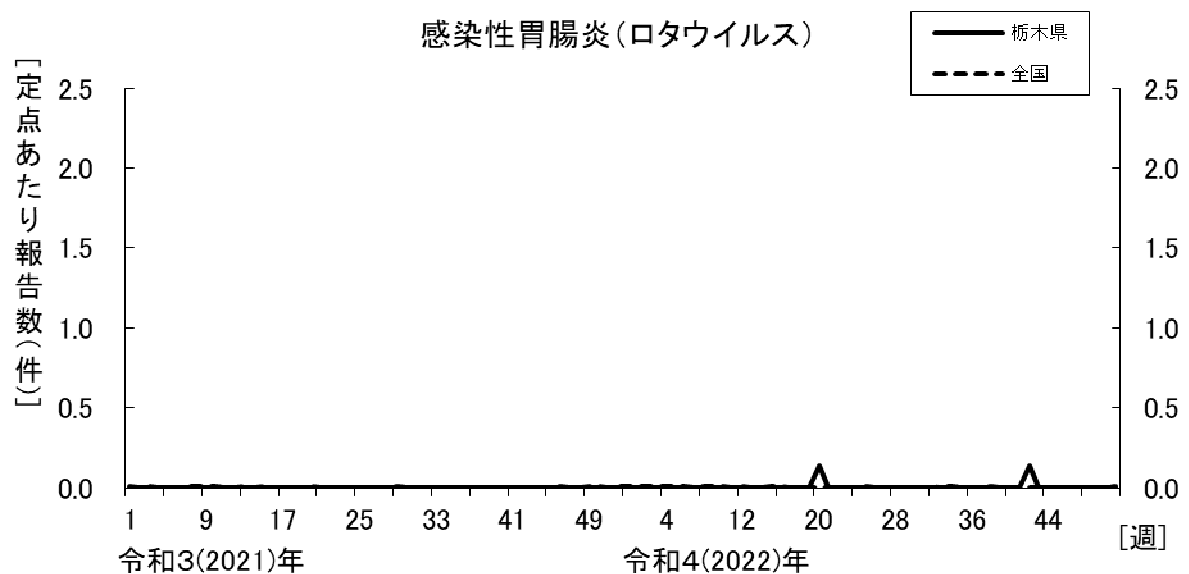
令和4（2022）年の総報告数は2件でした。（令和3（2021）年は0件）。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.29、全国0.21で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去8年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



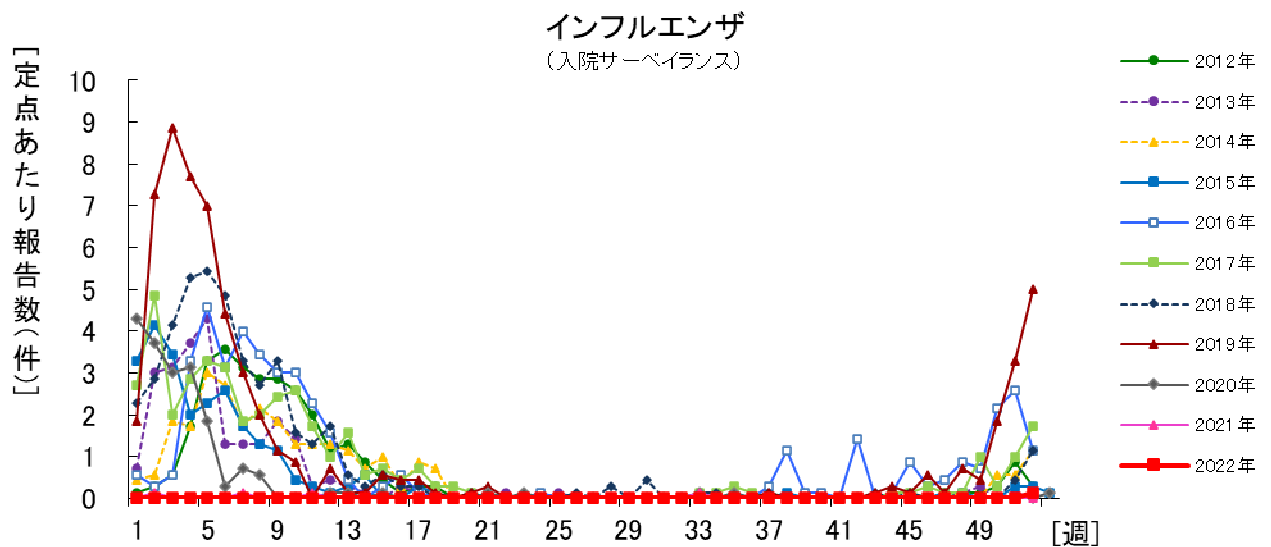
19. インフルエンザ（入院サーベイランス）

令和4（2022）年の総報告数は1件でした（令和3（2021）年は4件）。

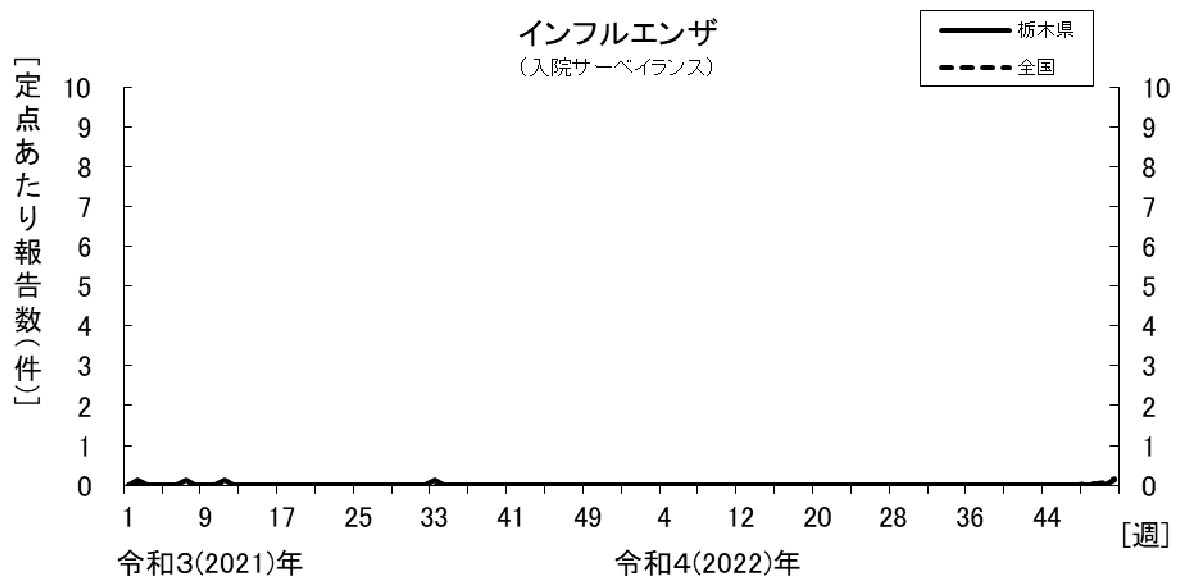
年齢階級別では、80歳代1件でした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県 0.14、全国 0.44 で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

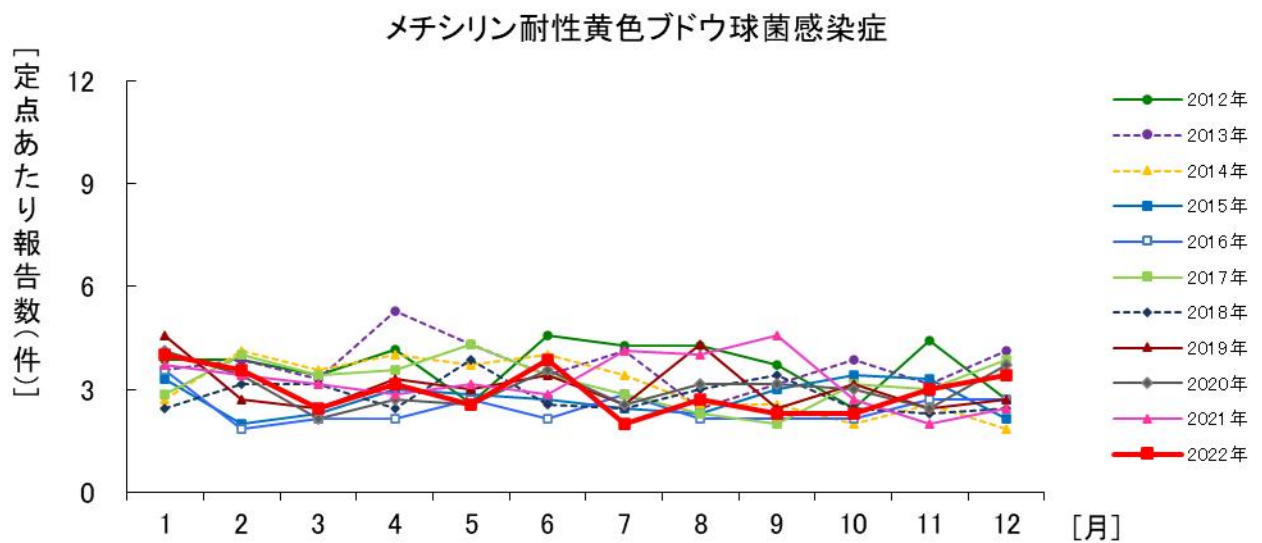


20. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

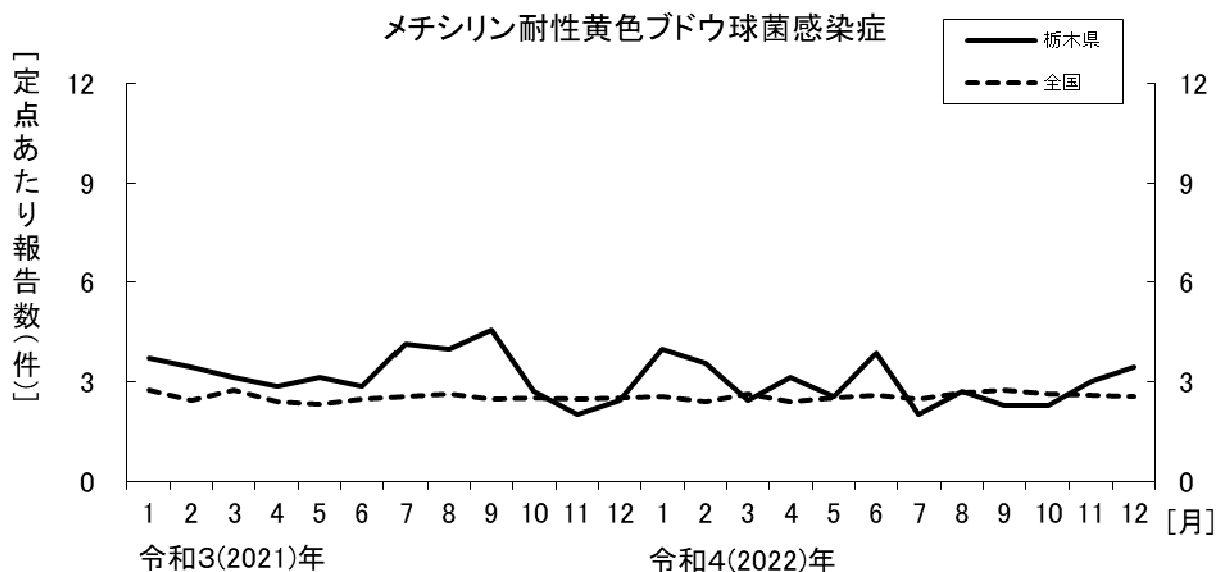
令和4(2022)年の総報告数は247件で、令和3(2021)年(273件)と比較すると0.90倍とほぼ同様でした。

年間を通じて報告があり、年間の定点あたり報告数の計は、栃木県35.29、全国30.68で、全国と比較して1.15倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



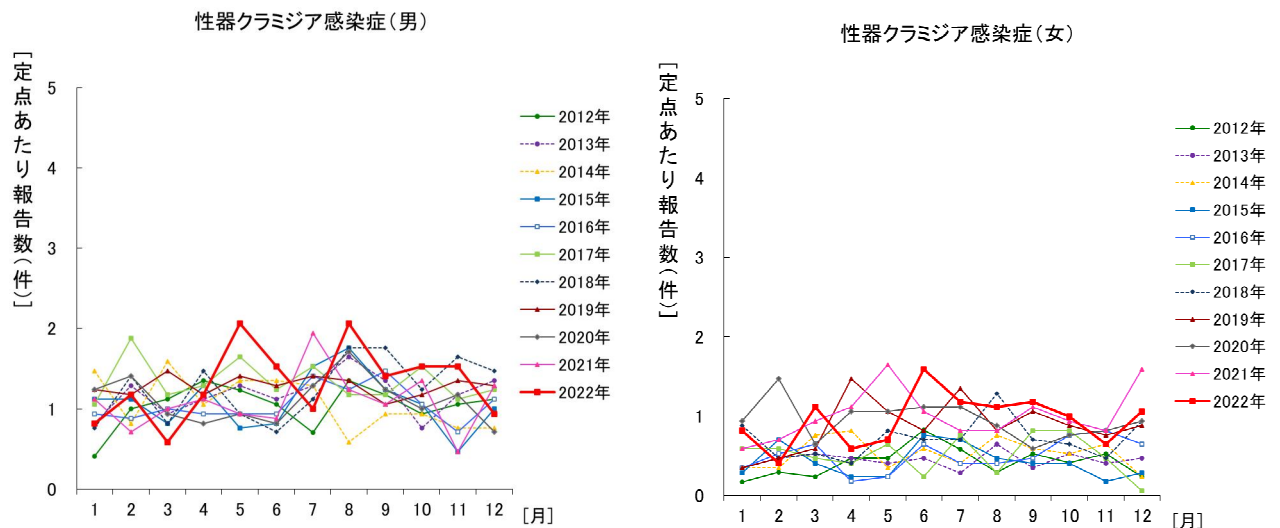
23. 性器クラミジア感染症

令和4(2022)年の総報告数は463件(男269件、女194件)でした。令和3(2021)年の430件(男223件、女207件)と比較すると、男性はやや増加、女性はほぼ同様でした。性別・年齢階級別では、20歳代は男性が42.8%、女性が64.9%、30歳代は男性が25.3%、女性が14.4%でした。

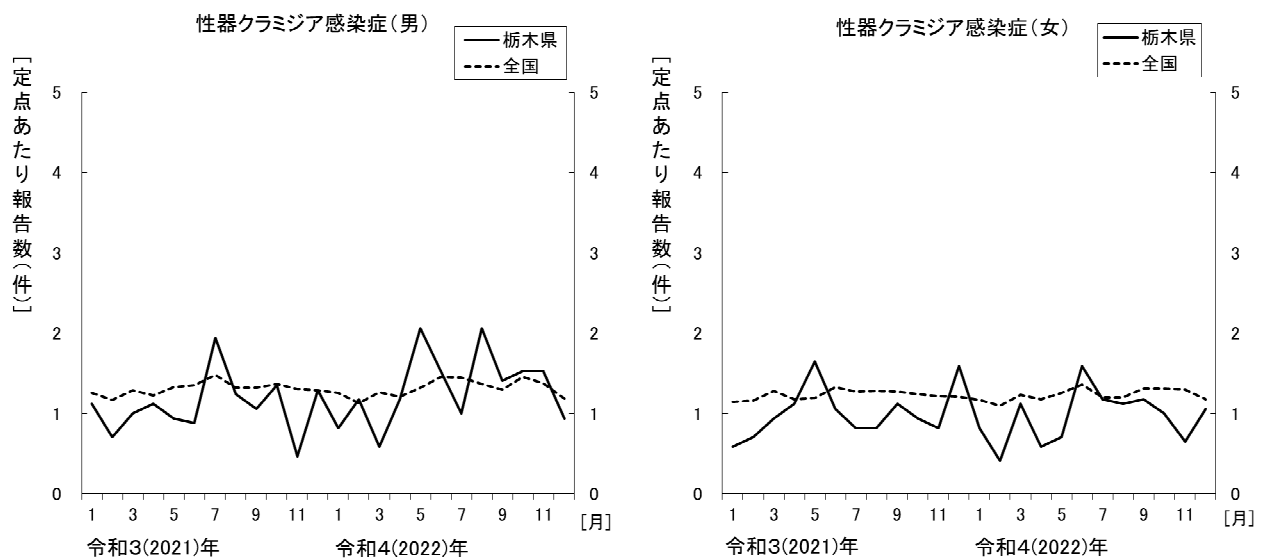
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県27.24、全国30.66で、全国と比較して0.89倍とやや低い水準でした。

男性は栃木県15.82、全国15.85で、全国と比較し1.00倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県11.41、全国14.81で、全国と比較し0.77倍とやや低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



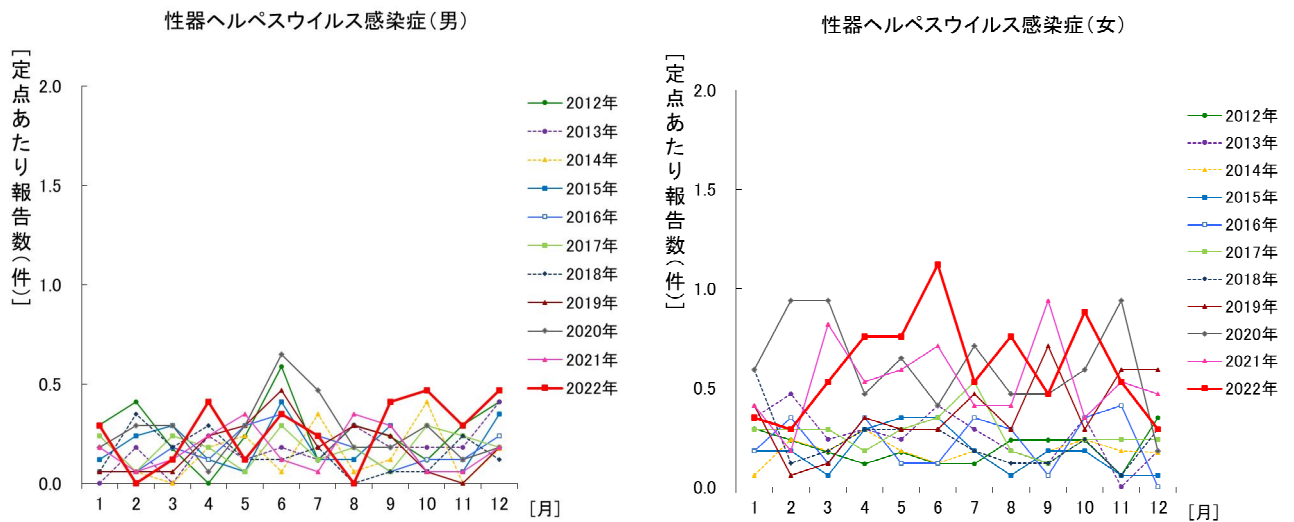
24. 性器ヘルペスウイルス感染症

令和4(2022)年の総報告数は178件(男54件、女124件)でした。令和3(2021)年の143件(男35件、女108件)と比較すると、男性は大幅に増加、女性はやや増加しました。性別・年齢階級別では、20歳代は男性が9.3%、女性が33.1%、30歳代は男性が25.9%、女性が23.4%でした。

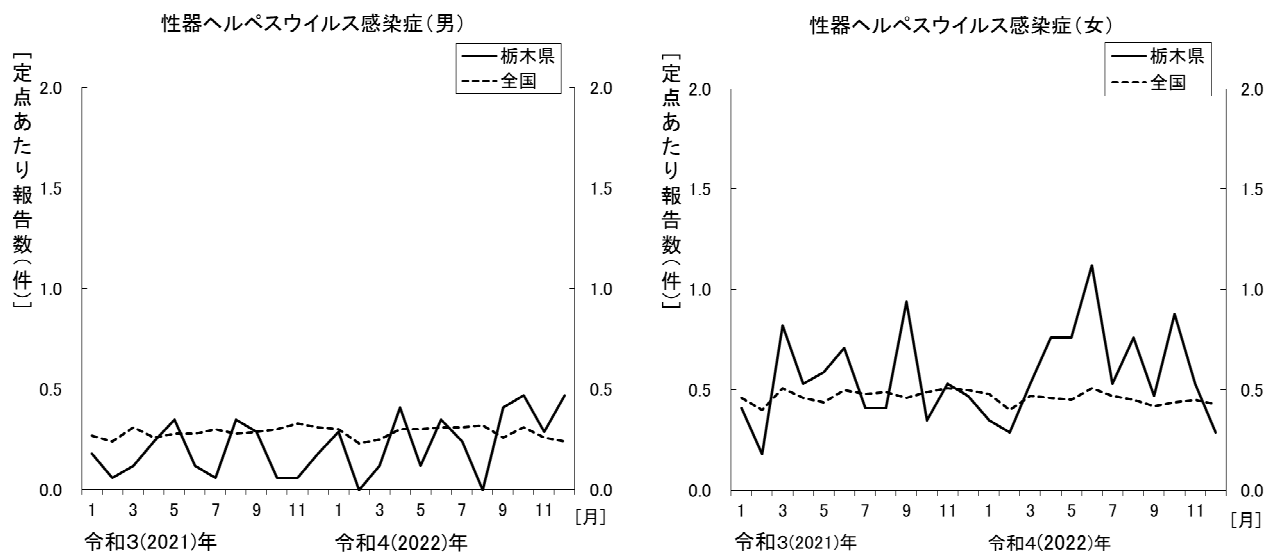
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県10.47、全国8.86で、全国と比較して1.18倍とやや高い水準でした。

男性は栃木県3.18、全国3.40で、全国と比較し0.94倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県7.29、全国5.46で、全国と比較し1.34倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向 (過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向 (全国との比較)



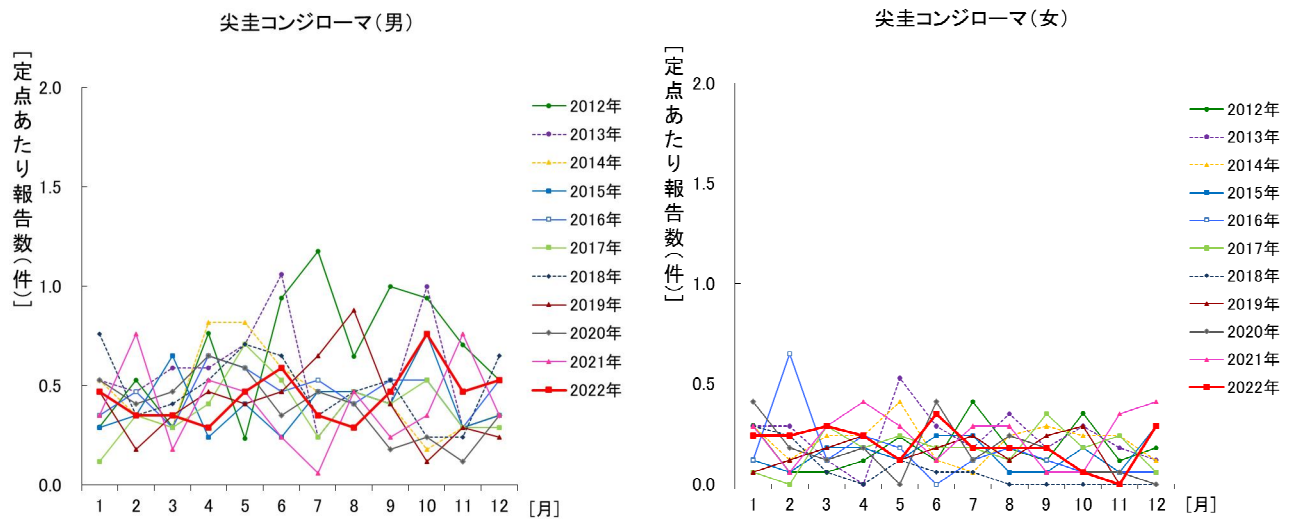
25. 尖圭コンジローマ

令和4(2022)年の総報告数は132件(男92件、女40件)でした。令和3(2021)年の131件(男81件、女50件)と比較すると、男性はやや増加、女性はやや減少しました。性別・年齢階級別では、20歳代は男性が20.7%、女性が82.5%、30歳代は男性が29.3%、女性が0.0%でした。

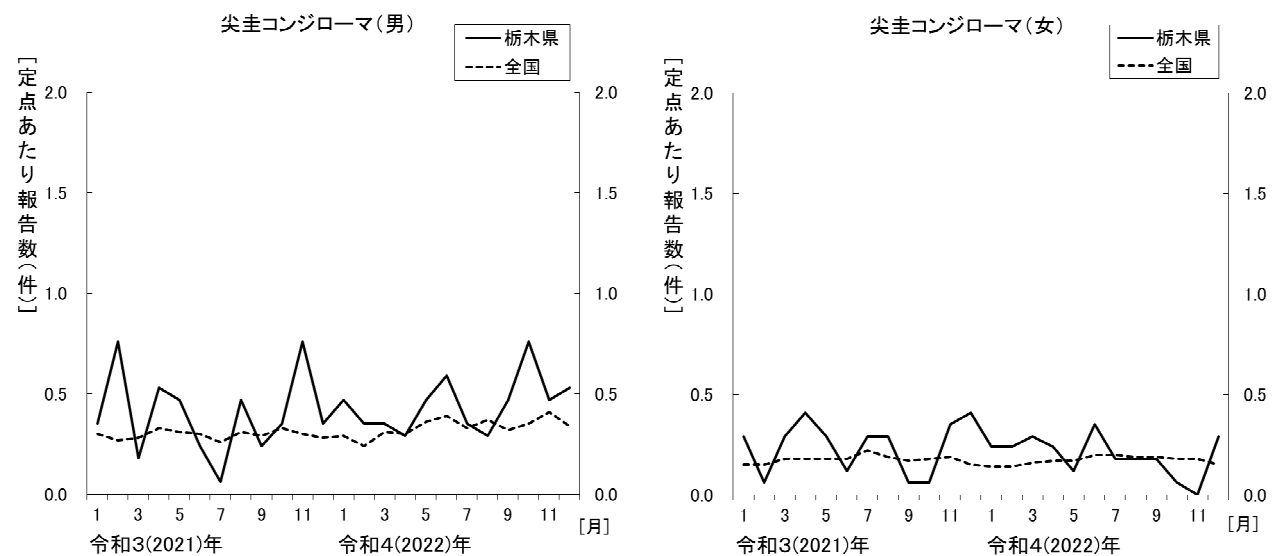
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県7.76、全国6.08で、全国と比較して1.28倍とかなり高い水準でした。

男性は栃木県5.41、全国4.02で、全国と比較し1.35倍とかなり高い水準、女性は栃木県2.35、全国2.06で、全国と比較し1.14倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



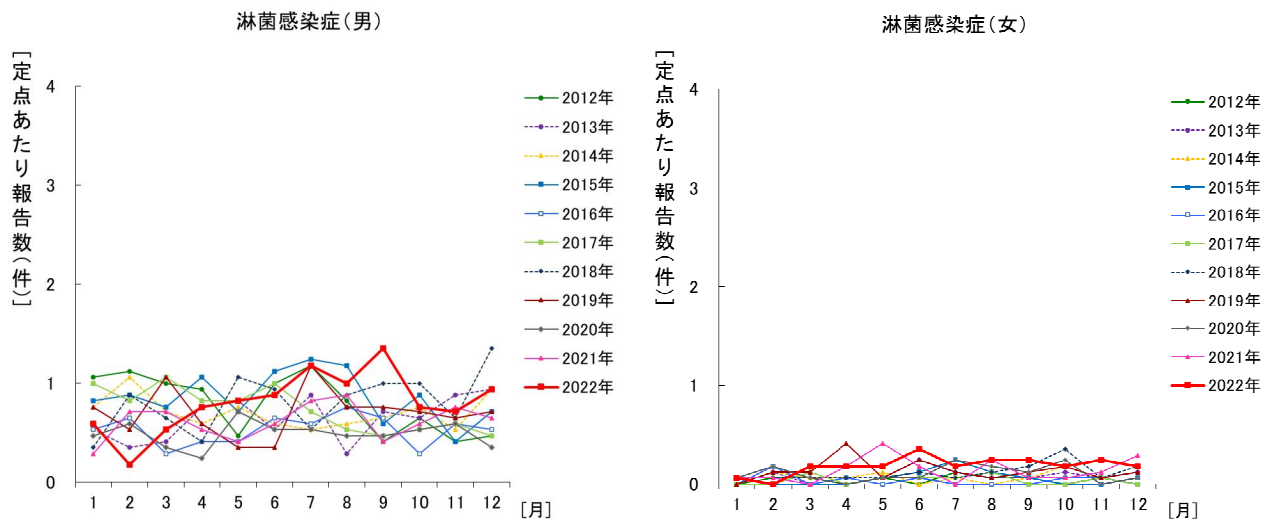
26. 淋菌感染症

令和4(2022)年の総報告数は202件(男165件、女37件)と、報告の81.7%を男性が占めました。令和3(2021)年の153件(男125件、女28件)と比較すると、男性、女性ともかなり増加しました。性別・年齢階級別では、20歳代は男性が37.6%、女性が40.5%、30歳代は男性が26.1%、女性が29.7%でした。

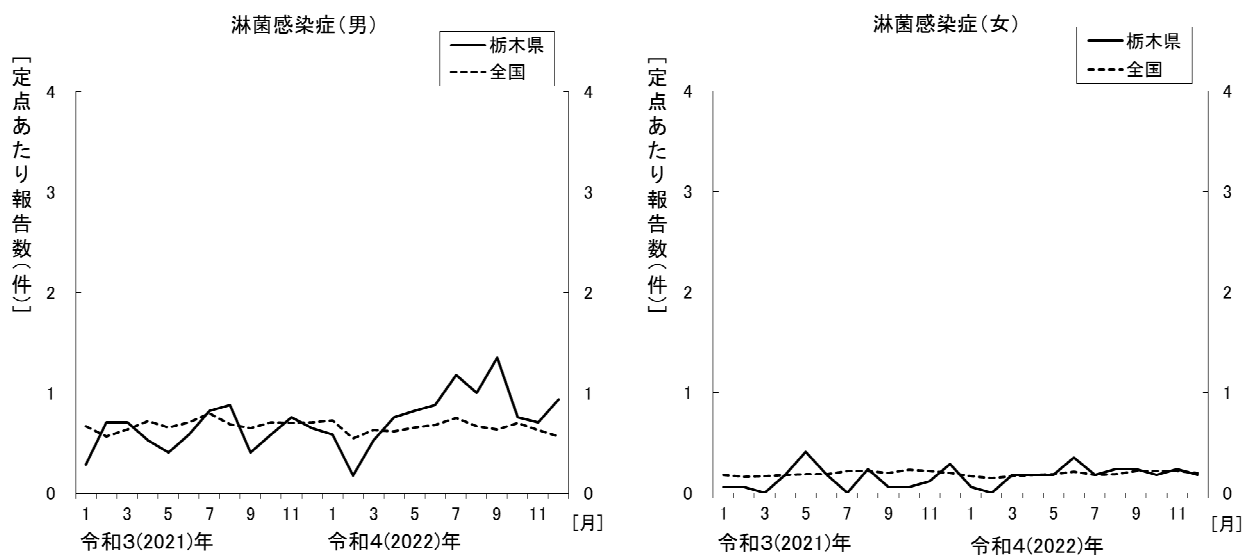
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県11.88、全国10.17で、全国と比較して1.17倍とやや高い水準でした。

男性は栃木県9.71、全国7.87で、全国と比較して1.23倍とやや高い水準、女性は栃木県2.18、全国2.30で、全国と比較して0.95倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



<主な本文出典>

感染症サーベイランスシステム (NESID)

・全国定点報告数

令和4(2022)年:公開データ(年報)【2023年10月28日作成】

令和3(2021)年:公開データ(年報)【2022年10月8日作成】

・栃木県定点報告数(週報)

令和4(2022)年:公開データ(週報)【2023年1月5日作成】

令和3(2021)年:公開データ(週報)【2022年1月7日作成】

・栃木県定点報告数(月報)

令和4(2022)年:公開データ(月報)【2023年1月13日作成】

令和3(2021)年:公開データ(月報)【2022年1月17日作成】